D01057501B

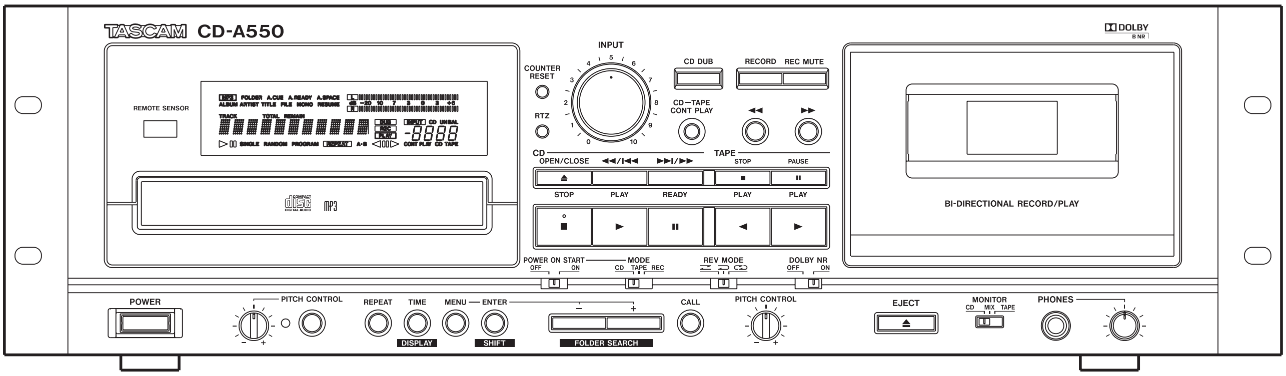
TASCAM
TEAC PROFESSIONAL

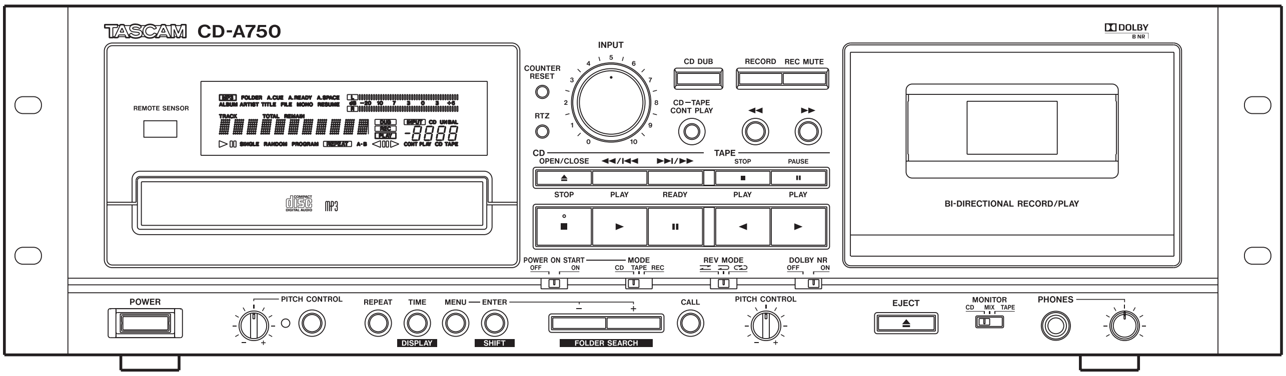
CD-A550/750

Compact Disc Player / Reverse Cassette Deck

取扱説明書

DOLBY
B NR





安全にお使いいただくために

この取扱説明書の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△ 記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。
	万一、機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

⚠注意

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

オーディオ機器、スピーカーなどの機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
- 湿気やほこりの多い場所
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

安全にお使いいただくために

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤った使用による発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

⚠警告（乾電池に関する警告）

	乾電池は絶対に充電しないでください。 乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

⚠警告（電池に関する警告）

	電池を入れるときは、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、電池ケースの表示されているとおりに正しく入れてください。 間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属製のものと接触しないように、テープなどで端子を絶縁してください。
	使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法に従って捨ててください。
	指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。 電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	電池を金属製の小物類と一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
	電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。 電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。 液が目に入った時には失明の恐れがありますので、目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師にご相談ください。液が体や衣服に付いた時は皮膚の怪我・やけどの原因になるのできれいな水で洗い流したあと、ただちに医師にご相談ください。
	電池の挿入や交換は、本機の電源を切った状態で行ってください。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておいてください。 電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。 もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
	分解しないでください。 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

目次

安全にお使いいただくために 2
電池の取り扱いについて 4

第1章　はじめに 7
本機の概要 7
本製品の構成 7
本書の表記 7
商標に関して 8
設置上の注意 8
結露について 8
製品のお手入れ 8
カセットレコーダーのヘッドの掃除 8
CD（コンパクトディスク）について 8
取り扱い上の注意 8
カセットテープについて 9
取り扱い上の注意 9
ドルビー NRシステムについて 9
アフターサービス 9

第2章　各部の名称と働き 10
フロントパネル 10
リアパネル 12
ワイヤレスリモコン（RC-A550） 13
ディスプレー 14

第3章　メニュー 16
メニューの構成 16
メニューの操作 16

第4章　準備 18
接続する 18
COMMON OUTの設定 19
リモコンを準備する 19
乾電池の入れ方 19
乾電池の交換時期 19
乾電池についての注意 19
リモコン使用上の注意 20
ディスプレーの輝度を調整する（DIMMER） 20

第5章　CDの再生 21
再生可能なディスク 21
データCDのフォルダとトラックについて 21
CDをセットする 22
トレーロック機能 22
再生する 22
曲を選ぶ 23
前後のトラックにスキップする 23
トラック番号を指定する 23
フォルダを選ぶ（データCDのみ） 24
早送り/早戻しサーチ 24
フォルダ再生（データCDのみ） 24
リモコンからフォルダ再生モードを設定する 24
本体からフォルダ再生モードを設定する 25
再生モード 25
再生モードを選択する 25
プログラム再生 26
プログラムを設定する 26
プログラムをすべて消去する 27
プログラムを確認する 27
プログラムを編集する 27
再生時間表示モード 28
文字情報表示モード 28
リピート再生 29
通常のリピート再生 29
A-Bリピート再生 29
ピッチコントロール 30
オートキュー機能（オーディオCDのみ） 30
リモコンの専用キーでオン/オフを切り換える 30
オートレディ機能 31
本体でオン/オフを切り換える 31
オートスペース機能 31
本体でオン/オフを切り換える 31
インクリメンタルプレイ 32
コール機能 32
リジューム再生 33
EOM機能 33
タリー信号の実際の使用方法（CD-A750のみ） 33

第6章　カセットテープの再生 34
再生準備 34
リバースモードを選ぶ 34
ドルビーノイズリダクションのオン/オフを選ぶ 34
再生する 34
テープカウンター 35
RTZ 36
ピッチコントロール 36

第7章　カセットテープの録音 37
録音の準備 37
リバースモードを選ぶ 37
ドルビーノイズリダクションのオン/オフを選ぶ 37
録音ソースを選ぶ 37
録音する 38
レックミュート機能 38
CDをテープにダビングする 38
基本ダビング（テープのA面の頭から録音） 38
録音レベルを調整してダビングする 39
テープエディット機能を使う 39
応用編 40

第8章　その他の機能 41
CDとテープの連続再生 41
パワーオンスタート 42
出荷時の設定に戻す 42
モノラル再生 43
本機の情報を見る 43
バージョンをチェックする 43
モーター稼働時間をチェックする 43

第9章　コントロールI/Oを使う（CD-A750のみ） 44
RS-232C端子を使う 44
RC-323Cに関するメニュー項目 44
パラレル端子を使う 44

第10章　メッセージ一覧 45
動作メッセージ 45
警告メッセージ 45
エラーメッセージ 45

目次

第11章　トラブルシューティング.. 46

第12章　仕様.. 47

定格.. 47
　CDプレーヤー部... 47
　カセットテープ部... 47
アナログオーディオ.. 47
　CDプレーヤー部... 47
　カセットテープ部... 47
　ヘッドホン部... 48
デジタルオーディオ.. 48
　CDプレーヤー部... 48
コントロールI/O（CD-A750のみ）... 48
オーディオ性能... 48
一般.. 48
寸法図.. 49

第 1 章　はじめに

このたびは、TASCAM Compact Disc Player / Reverse Cassette Deck CD-A550/750をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
また取扱説明書は、弊社ウェブサイト（http://www.tascam.jp/）からダウンロードすることができます。

本機の概要

- CDプレーヤーとカセットレコーダーを搭載。
- CDプレーヤーとカセットレコーダーを完全に独立操作可能。
- CD専用出力端子とコモン出力端子を装備。コモン出力端子からはテープ出力の他に、CDとテープのミックス出力やテープ優先出力も可能。
- アンバランスおよびバランスのアナログ入出力を装備（CD-A550はアンバランスのみ）。
- CDとカセットテープの連続再生が可能。
- CDからカセットテープへのダビング時、テープのA面、B面へのトラック自動振り分けが可能（テープエディット機能）。
- CDまたはカセットテープのパワーオン再生、カセットテープのパワーオン録音が可能。
- ヘッドホンによるモニターが可能。
- テンキーを装備したワイヤレスリモコンを付属。
- パラレルおよびシリアルのコントロールポートを装備し、外部からのコントロールやタリー出力が可能（CD-A750のみ）。
- 3Uのラックマウントサイズ。

CD機能

- CD-R、CD-RWディスクの再生が可能。
- CDテキストを表示可能。
- MP3オーディオやWAVオーディオの再生が可能。
- 前回、再生を終了した位置から続きを再生するリジューム再生機能。
- トラックの音声立ち上がり位置で一時停止するオートキュー機能。（オーディオCDのみ）
- トラック再生後に次のトラックの頭で一時停止するオートレディ機能。
- トラック再生を中断したときに次のトラックの頭で自動待機するインクリメンタルプレイ機能。
- 再生トラックの間に自動的にスペースを作るオートスペース機能。
- 再生開始ポイントに戻すことができるコール（バックキュー）機能。
- トラックの終了を予告するEOM機能。
- 4種類の再生モード（連続、シングル、ランダム、プログラム）。
- リピート再生機能。
- ピッチコントロール機能（±12.5%）。
- 再生中のトレーオープン禁止機能。

カセットテープ機能

- オートリバース録音/再生が可能。
- ドルビー Bノイズリダクションを装備（録音/再生用）。
- RTZ（リターン・トゥ・ゼロ）機能。
- 再生ピッチコントロール機能（±10%）。

本製品の構成

本製品の構成は以下の通りです。
なお開梱は、本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。
梱包箱と梱包材は後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合、当社までご連絡ください。

- 本体　1
- ワイヤレスリモコン（RC-A550）　1
- 単3形乾電池　2
- ラックマウントビスキット　1
- 保証書　1
- 取扱説明書（本書）　1

本書の表記

本書では以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のキー /端子などを「**MENU**キー」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“**RANDOM**”のように“_”で括って表記します。
- ディスプレーのメイン表示部に時間やタイトルを表示している状態を「通常表示」と呼びます。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。
- MP3オーディオやWAVオーディオを記録したCD を「データCD」と表記する場合があります。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

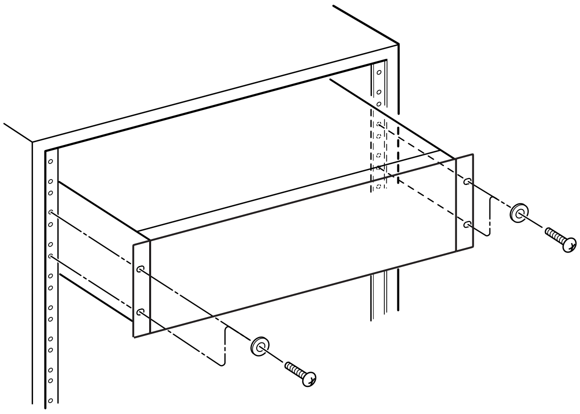
指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、CDやカセットテープを破損する可能性がある場合に記載します。

商標に関して

* TASCAMはティアック株式会社の登録商標です。
* ドルビーラボトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビーおよびダブルD記号はドルビーラボトリーズの商標です。
* MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
* その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本製品の動作保証温度は摂氏5度～40度です。
- 本製品は水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本製品の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本製品を置かないでください。
- 本製品をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスを使って、下図のように取り付けてください。
なお、ラック内部では、本製品の上に1U以上（5cm以上）のスペースを開けてください。



結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

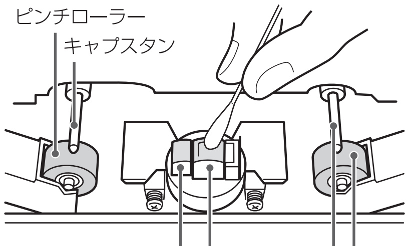
製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

カセットレコーダーのヘッドの清掃

カセットレコーダーのヘッド部が汚れると、再生/録音の音質が悪化したり、音飛びの原因になります。また、テープ走行部の汚れは、テープの巻き込みなどを引き起こすことがあります。約10時間の使用を目安に、市販のクリーニング液を綿棒に含ませて、カセットレコーダーのヘッドとピンチローラー、キャプスタンを清掃してください。

注 意

クリーニング液が乾くまで再生/録音を行わないでください。



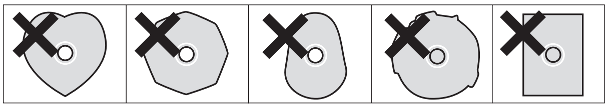
CD（コンパクトディスク）について

本機は市販の音楽CDのほかに、オーディオCD（CD-DA）形式で記録したCD-RやCD-RWディスク、MP3オーディオファイルあるいはWAVオーディオファイルを記録したCD-RやCD-RWディスクを再生することができます。また8cmCDの再生も可能です。

取り扱い上の注意

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には触れないでください。
指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。
ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本製品にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。

- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。



- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。

カセットテープについて

使用テープ

録音可能テープ：　タイプI　（ノーマル）
　　　　　　　　　タイプII　（ハイポジション／クローム）
再生可能テープ：　タイプI　（ノーマル）
　　　　　　　　　タイプII　（ハイポジション／クローム）
　　　　　　　　　タイプIV（メタル）

録音防止用つめ

誤って録音内容を消してしまうミスを防ぐために、録音防止用のつめがあります。つめはカセットのA(1)面、B(2)面用にそれぞれあります。ドライバーの先などで折って取り除くと、録音防止装置が働いて録音ができません。
再度、録音をしたいときは、セロハンテープを貼ってつめ穴をふさいでください。

テープの「たるみ」

ご使用の前に、カセットのテープがたるんでいないか確かめてください。テープがキャプスタンなどに巻き込まれることがあります。鉛筆などでたるみを巻取ってください。

テープの自動検出孔について

カセットにはテープ自動検出孔がついています。本機では、テープの種類を自動検出します。

お勧めできないカセットテープ

次のようなカセットテープを使用すると、正常な動作や性能が得られないことがあります。またテープが巻込まれて思わぬトラブルを起こすこともありますので、ご注意ください。

- **形状精度の悪いカセットテープ**
  カセットが変形していたり、テープの走行が不安定なもの、早送り、巻戻し中に異音を生ずるカセット。

- **長時間テープ**
  90分を越えるテープは、大変薄くて伸びやすいため、ワウ・フラッターの原因ともなります。また、テープが機械に巻き込まれることがありますので、ご注意ください。

取扱い上の注意

- カセットを開けたり、テープを引出したりしないでください。
- テープの磁性体コーティング面に直接手を触れないでください。
- ゴミやホコリの多い場所に放置しないでください。
- 高温・多湿の場所での使用、保管は避けてください。
- 強磁場での使用、保管は避けてください。雑音が入ったり、録音内容が消えてしまうことがあります。

ドルビー NRシステムについて

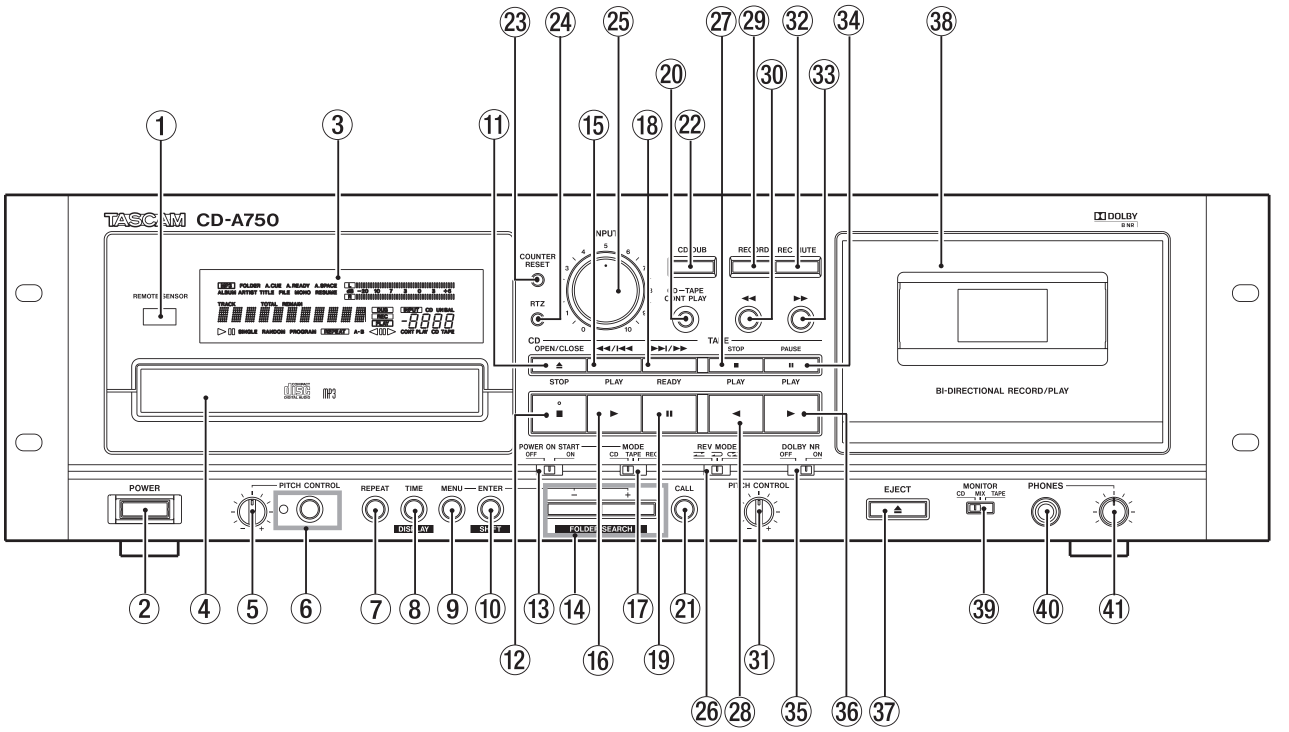
録音時に発生する「シー」というテープノイズを低減するのがドルビー NRシステムです。本機はBタイプを内蔵しています。

- ドルビー NRは録音→再生の両方で効果を発揮しますので、再生するときは録音した時と同じ**NR ON/OFF**のポジションに合わせてください。
- ドルビー NRにて録音したカセットは、ドルビー B NR ONとメモしておきましょう。

アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、業務用製品の場合は、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合は有償になります。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上、ティアック修理センターまでご連絡ください。
  - 型名、型番（CD-A550、CD-A750）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。

フロントパネル



① リモコン受光部

付属のワイヤレスリモコン（RC-A550）の信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。

② POWERボタン

電源をオン/オフします。

③ ディスプレー

トランスポート状態、選択中の入力ソース、録音/再生信号レベル、メニューなどを表示します。

CD 部

④ ディスクトレー

OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレーを開け、ディスクのセット/取り出しを行います。

ディスクトレーを閉じるときはOPEN/CLOSEキーを押します。

⑤ PITCH CONTROLつまみ

CDの再生ピッチを設定します。（ → 30ページ「ピッチコントロール」）

⑥ PITCH CONTROLキー /インジケーター

このキーを使ってCDのピッチコントロール機能のオン/オフを行います。（ → 30ページ「ピッチコントロール」）

オンの時にインジケーターが点灯します。

⑦ REPEATキー

リピート再生機能のオン/オフを行います。（ → 29ページ「リピート再生」）

⑧ TIME / DISPLAYキー

再生時間表示中にこのキーを押すと、再生時間表示モード（トラック経過時間、トラック残時間、または総残時間）が切り換わります。文字情報表示中にこのキーを押すと、再生時間表示になります。（ → 28ページ「再生時間表示モード」）

再生時間表示中にSHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、文字情報表示になり、アルバム名、曲名、アーティスト名、またはファイル名が表示されます。文字情報表示中にSHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、文字情報内容（アルバム名、曲名、アーティスト名、またはファイル名）が切り換わります。また、文字情報表示中にこのキー長く押すと、表示がスクロールします。（ → 28ページ「文字情報表示モード」）

⑨ MENUキー

ディスプレーが通常表示中に押すとメニューモードになり、メニュー項目選択表示になります。

メニュー項目選択表示中に押すと、通常表示に戻ります。

メニュー編集表示中に押すと、メニュー項目選択表示に戻ります。（ → 16ページ「メニュー」）

⑩ ENTER / SHIFTキー

メニューモード中、選択や設定を決定するときに押します。

メニューモードでないとき、SHIFTキーとして働きます。

⑪ OPEN/CLOSEキー

ディスクトレーを開閉します。

⑫ STOPキー

CDの再生を停止します。

⑬ POWER ON STARTスイッチ

パワーオンスタート機能のオン/オフを設定します。（ → 42ページ「パワーオンスタート」）

⑭ ー /＋/ FOLDER SEARCHキー
メニューモード中、選択や設定を切り換えます。
データCDをセットしている場合、SHIFTキーを押しながらこれらのキーを押すと、カレントフォルダが切り換わります。
（ → 24ページ「フォルダ再生（データCDのみ）」）

⑮ ⏮ / ◀◀ キー
短く押すと手前のトラックにスキップします。
長く押すと早戻しを行います。

⑯ PLAYキー
停止中または一時停止中に押すと、CDの再生を開始します。

⑰ MODEスイッチ
パワーオンスタートのモード（CD再生、カセットテープ再生またはカセットテープ録音）を設定します。（ → 42ページ「パワーオンスタート」）

⑱ ▶▶I / ▶▶ キー
短く押すと次のトラックにスキップします。
長く押すと早送りを行います。

⑲ READYキー
CDの再生を一時停止状態にします。

⑳ CD-TAPE CONT PLAYキー
カセットテープとCDの連続再生モードのオン/オフを行います。
（ → 41ページ「CDとテープの連続再生」）

㉑ CALLキー
最後に一時停止から再生を始めたポイントにロケートし、一時停止します。（ → 32ページ「コール機能」）

㉒ CD DUBキー
CDの再生音をカセットテープに録音（ダビング）します。（ → 38ページ「CDをテープにダビングする」）

カセットテープ部

㉓ COUNTER RESETキー
テープカウンターを **“0000”** にリセットします。

㉔ RTZキー
カセットテープをカウンターゼロポイント（0000）にロケートします。

㉕ INPUTつまみ
カセットテープの録音レベルを調節します。（ → 38ページ「録音する」）

㉖ REV MODEスイッチ
テープ走行モードを片方向（⊐）、両方向（⊃）、連続（⊂⊃）の中から選択します。（ → 34ページ「リバースモードを選ぶ」）
録音時は、連続（⊂⊃）を選択しても両方向動作になります。（ → 37ページ「リバースモードを選ぶ」）

㉗ STOPキー
カセットテープを停止します。

㉘ PLAY [◀] キー
カセットテープをリバース方向（逆方向）に再生します。
録音待機/再生一時停止時は、録音/再生を開始します。
ただし、フォワード方向で再生一時停止時にこのキーを押すと、リバース方向の再生一時停止になります。

㉙ RECORDキー
カセットテープを録音待機状態にします。

㉚ ◀◀ キー
カセットテープを巻き戻しします。

㉛ PITCH CONTROLつまみ
カセットテープの再生ピッチを設定します（±10%）。（ → 36ページ「ピッチコントロール」）

㉜ REC MUTEキー
録音中に押すと、約4秒間の無信号録音を行った後に録音待機状態になります。（ → 38ページ「レックミュート機能」）

㉝ ▶▶ キー
カセットテープを早送りします。

㉞ PAUSEキー
カセットテープの再生や録音を一時停止します。
録音待機/一時停止時は、録音/再生を開始します。

㉟ DOLBY NRスイッチ
カセットテープ再生/録音時のドルビー Bノイズリダクションのオン/オフを選択します。（ → 34ページ「ドルビーノイズリダクションのオン/オフを選ぶ」）、（ → 37ページ「ドルビーノイズリダクションのオン/オフを選ぶ」）

㊱ PLAY [▶]キー
カセットテープをフォワード方向（順方向）に再生します。
録音待機/再生一時停止時は、録音/再生を開始します。
ただし、リバース方向で再生一時停止時にこのキーを押すと、フォワード方向の再生一時停止になります。

㊲ EJECTボタン
カセットホルダーを開くときに押します。

㊳ カセットホルダー
カセットテープをセット/取り出しするとき、EJECTボタンを押してカセットホルダーを開きます。
カセットホルダーを閉じるには直接カセットホルダーを手で押します。

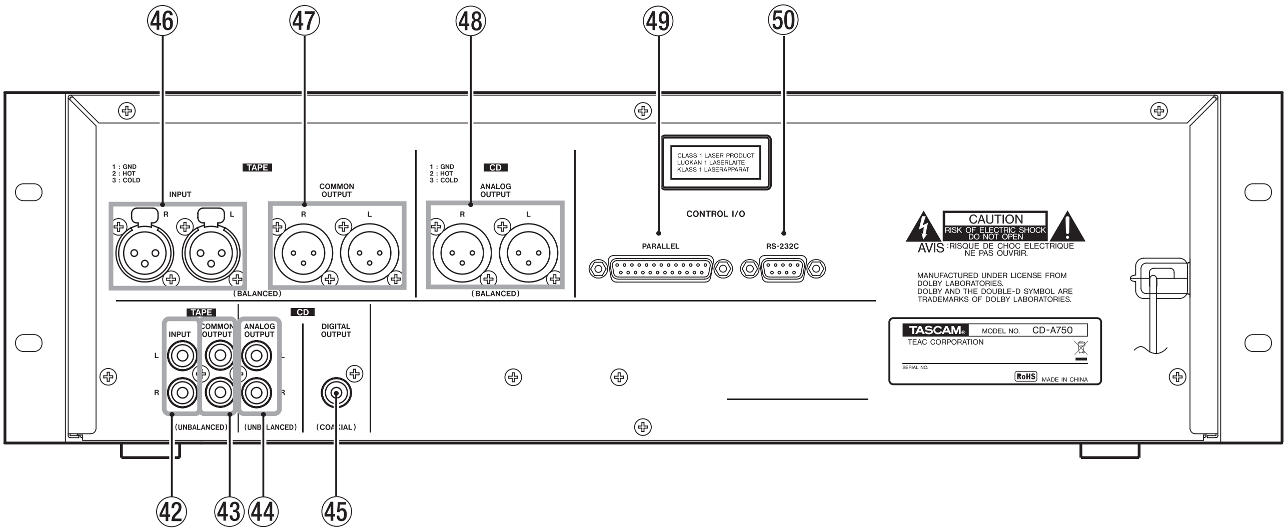
モニター部

㊴ MONITORスイッチ
PHONESジャックから出力される音声を選択します。CD音声のみ、テープ音声のみ、CDとテープのミックス音声の中から選択します。

㊵ PHONESジャック
ステレオヘッドホンを接続します（ステレオ標準ホンジャック）。

㊶ PHONESつまみ
PHONESジャックから出力される音声のボリュームを調節します。

リアパネル



㊷ TAPE INPUT（UNBALANCED）端子

カセットテープに録音するアナログソース信号（－９dBu、アンバランス）を入力します。

㊸ TAPE COMMON OUTPUT（UNBALANCED）端子

カセットテープの再生信号をアンバランス出力します（－4.5dBu）。録音中/録音待機中は録音信号を出力します。ただしメニューのCOMMON OUT項目の設定次第で、条件によってCD再生信号を出力することもできます。（ → 19ページ「COMMON OUTの設定」）

㊹ CD OUTPUT（UNBALANCED）端子

CDの再生信号をアンバランス出力します（－10dBV）。

㊺ CD DIGITAL OUTPUT（COAXIAL）端子

CDの再生信号をS/PDIFフォーマットでデジタル出力します。

㊻ TAPE INPUT（BALANCED）端子（CD-A750のみ）

カセットテープに録音するアナログソース信号（＋4dBu、バランス）を入力します。

㊼ TAPE COMMON OUTPUT（BALANCED）端子（CD-A750のみ）

カセットテープの再生信号をバランス出力します（＋4dBu）。録音中/録音待機中は録音信号を出力します。ただしメニューのCOMMON OUT項目の設定次第で、条件によってCD再生信号を出力することもできます。（ → 19ページ「COMMON OUTの設定」）

㊽ CD OUTPUT（BALANCED）端子（CD-A750のみ）

CDの再生信号をバランス出力します（＋4dBu）。

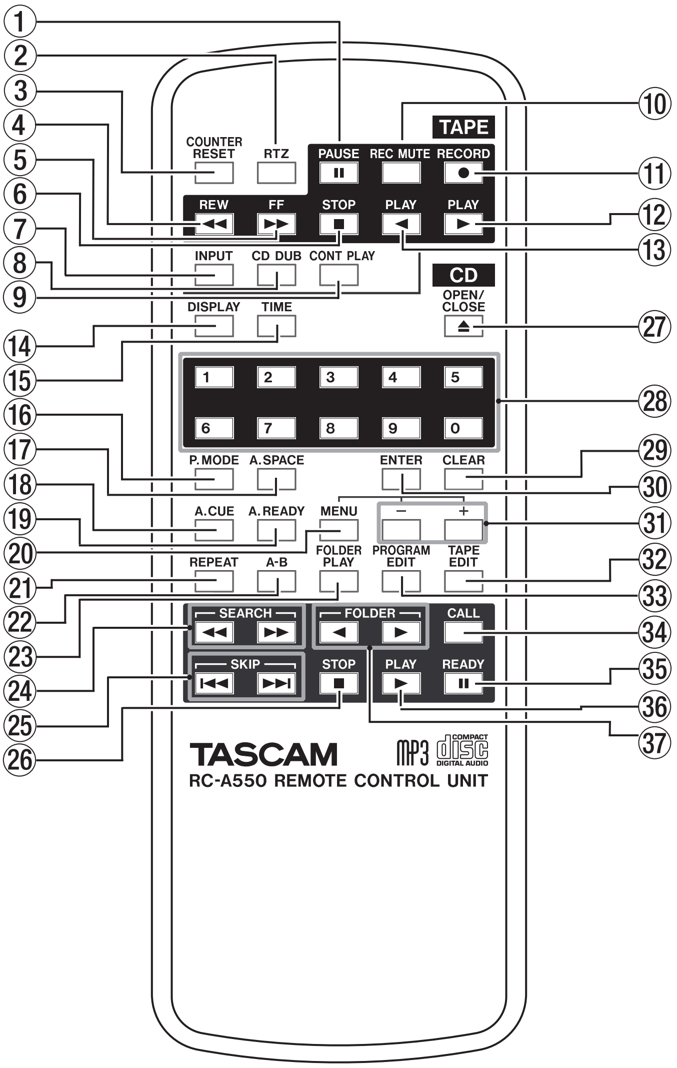
㊾ CONTROL I/O - PARALLEL端子（CD-A750のみ）

外部機器から本機をコントロールするためのパラレル制御端子です。（ → 44ページ「パラレル端子を使う」）

㊿ CONTROL I/O - RS-232C端子（CD-A750のみ）

外部機器から本機をシリアルコントロールするための端子です。（ → 44ページ「RS-232C端子を使う」）

ワイヤレスリモコン（RC-A550）



カセットテープ部

① PAUSEキー
再生や録音を一時停止します。
録音待機/一時停止時は、録音/再生を開始します。

② RTZキー
カセットテープをカウンターゼロポイント（0000）にロケートします。

③ COUNTER RESETキー
テープカウンターを“0000”にリセットします。（ → 35ページ「カウンターリセット」）

④ REWキー
カセットテープを巻き戻します。

⑤ FFキー
カセットテープを早送りします。

⑥ STOPキー
カセットテープを停止します。

⑦ INPUTキー
カセットテープに録音するソースを選択します。（ → 37ページ「録音ソースを選ぶ」）

⑧ CD DUBキー
CDの再生信号をカセットテープに録音（ダビング）します。
（ → 38ページ「CDをテープにダビングする」）

⑨ CONT PLAYキー
カセットテープとCDの連続再生モードのオン/オフを行います。
（ → 41ページ「CDとテープの連続再生」）

⑩ REC MUTEキー
録音中に押すと、約4秒間の無信号録音を行った後に録音待機状態になります。（ → 38ページ「レックミュート機能」）

⑪ RECORDキー
カセットテープを録音待機状態にします。

⑫ PLAY [►]キー
カセットテープをフォワード方向（順方向）に再生します。
録音待機/再生一時停止時は、録音/再生を開始します。
ただし、リバース方向で再生一時停止時にこのキーを押すと、フォワード方向の再生一時停止になります。

⑬ PLAY [◄] キー
カセットテープをリバース方向（逆方向）に再生します。
録音待機/再生一時停止時は、録音/再生を開始します。
ただし、フォワード方向で再生一時停止時にこのキーを押すと、リバース方向の再生一時停止になります。

CD部

⑭ DISPLAYキー
再生時間表示中にこのキーを押すと、文字情報表示になり、アルバム名、曲名、アーティスト名、またはファイル名が表示されます。文字情報表示中にこのキーを押すと、文字情報内容（アルバム名、曲名、アーティスト名、またはファイル名）が切り換わります。また、文字情報表示中にこのキーを長く押すと、表示がスクロールします。（ → 28ページ「文字情報表示モード」）

⑮ TIMEキー
再生時間表示中にこのキーを押すと、再生時間表示モード（トラック経過時間、トラック残時間、または総残時間）が切り換わります。文字情報表示中にこのキーを押すと、再生時間表示になります。（ → 28ページ「再生時間表示モード」）

⑯ P.MODEキー
再生モードを切り換えます。再生モードには連続再生、シングル再生、ランダム再生、プログラム再生の4つのモードがあります。（ → 25ページ「再生モード」）

⑰ A.SPACE キー
オートスペース機能をオン/オフします。（ → 31ページ「オートスペース機能」）

⑱ A.CUEキー
オートキュー機能をオン/オフします。（ → 30ページ「オートキュー機能」）

⑲ A.READYキー
オートレディ機能をオン/オフします。（ → 31ページ「オートレディ機能」）

⑳ **MENUキー**
ディスプレーが通常表示中に押すとメニューモードになり、メニュー項目選択表示になります。
メニュー項目選択表示中に押すと、通常表示に戻ります。
メニュー編集表示中に押すと、メニュー項目選択表示に戻ります。（ → 16ページ「メニュー」）

㉑ **REPEATキー**
リピート再生機能のオン/オフを行います。（ → 29ページ「リピート再生」）

㉒ **A-Bキー**
A-Bリピート再生の始点、終点の設定/解除を行います。（ → 29ページ「A-Bリピート再生」）

㉓ **FOLDER PLAYキー**
フォルダ再生機能のオン/オフを行います。（ → 24ページ「フォルダ再生（データCDのみ）」）

㉔ **SEARCH ◀◀ / ▶▶ キー**
押している間、早戻し、早送りを行います。

㉕ **SKIP |◀◀ / ▶▶| キー**
手前のトラック、次のトラックにスキップします。

㉖ **STOPキー**
CDの再生を停止します。

㉗ **OPEN/CLOSEキー**
ディスクトレーを開閉します。

㉘ **テンキー**
CD再生時やプログラム入力時のトラック番号指定に使います。

㉙ **CLEARキー**
プログラム編集時にプログラムから曲を消去します。（ → 26ページ「プログラム再生」）

㉚ **ENTERキー**
メニューモード中、選択や設定を決定するときに押します。

㉛ **ー /＋キー**
メニューモード時、選択や設定を切り換えます。

㉜ **TAPE EDITキー**
テープエディット機能を実行します。（ → 39ページ「テープエディット機能を使う」）

㉝ **PROGRAM EDITキー**
プログラム編集モードに入ります。（ → 26ページ「プログラム再生」）
プログラム編集モード中に押すと、プログラム編集モードを終了して通常表示に戻ります。

㉞ **CALLキー**
最後に一時停止から再生を始めたポイントにロケートし、一時停止します。（ → 32ページ「コール機能」）

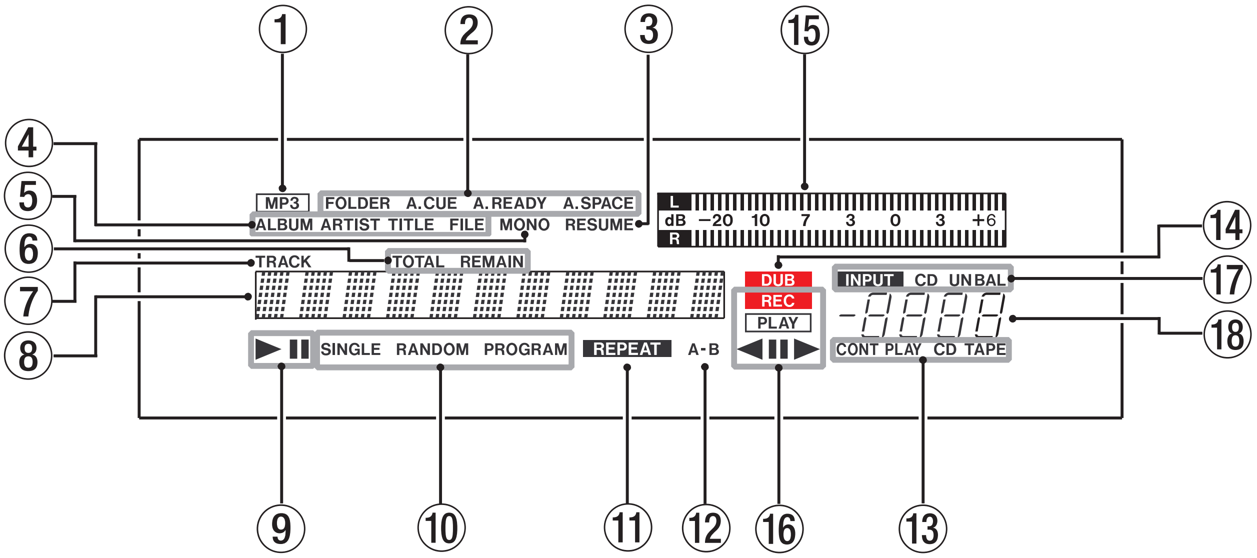
㉟ **READYキー**
CDの再生を一時停止状態にします。

㊱ **PLAYキー**
停止中または一時停止中に押すと、CDの再生を開始します。

㊲ **FOLDER ◀ / ▶ キー**
データCDのフォルダを切り換えます。

ディスプレー

本機のディスプレーには以下の情報が表示されます。



CD部

① **MP3マーク**
MP3ファイルやWAVファイルが含まれたデータCDをセットしているときに点灯します。

② **CD機能表示**
CDのフォルダ再生機能、オートレディ機能、オートキュー機能、オートスペース機能がオンのとき、それぞれ“FOLDER”、“A.READY”、“A.CUE”、“A.SPACE” が点灯します。

③ RESUMEマーク
CDのリジューム再生機能がオンのとき点灯します。

④ 文字情報モード表示
ディスクの文字情報を表示中、表示内容によって、"ALBUM"（アルバム）、"ARTIST"（アーティスト）、"TITLE"（タイトル）または"FILE"（ファイル名）が点灯します。

⑤ MONOマーク
出力をモノラルに設定しているとき点灯します。

⑥ 再生時間表示モード表示
メイン表示部が再生時間を表示中、時間表示モードに応じて点灯します。

- 再生時間表示モードが総残時間のとき、"TOTAL REMAIN"が点灯します。
- 再生時間表示モードがトラック残時間のとき、"REMAIN"が点灯します。
- 再生時間表示モードがトラック経過時間のとき、消灯します。メイン表示部が文字情報（メニュー、タイトル表示など）を表示しているときや、メニューモード、プログラム設定モードのときは消灯します。

⑦ TRACK
メイン表示部が時間表示のとき点灯します。ただしインクリメンタルプレイ動作中は点滅します。メイン表示部が文字情報（メニュー、タイトルなど）を表示しているときや、メニューモード、プログラム設定モードのときは消灯します。

⑧ メイン表示
11文字分の表示を行います。
CDのトラック/再生時間やタイトル情報を表示する他に、メニューモードでの表示や各種状態（エラーなど）の表示も行います。

⑨ CDトランスポート状態表示
CDが再生中に"►"が点灯します。CDが一時停止中に"II"が点灯します。

⑩ 再生モード表示
CDの再生モードに応じて点灯します。
通常再生（連続再生モード）のときは、すべて消灯します。
シングルモード、ランダムモード、プログラムモードのとき、それぞれ"SINGLE"、"RANDOM"、"PROGRAM"が点灯します。

⑪ REPEAT
CDのリピート再生機能がオンのときに点灯します。

⑫ A-B表示
CDのA-Bリピート再生中に点灯します。
Aポイントのみが設定されているとき、"A-"は点灯し"B"が点滅します。

⑬ CONT PLAY CD TAPE
連続再生モード動作時に点灯します。動作開始前（CDとテープが停止中）は"CONT PLAY"が点滅します。CD再生時はCD"が点滅します。カセットテープ再生時は"TAPE"が点滅します。

⑭ DUB
CDダビング機能が動作中、点灯します。

カセット部

⑮ レベルメーター
カセットテープの再生/録音音声レベルを表示します。

⑯ テープトランスポート状態表示
カセットテープが再生中/再生一時停止中は"PLAY"、録音中/録音待機中は"REC"と"PLAY"が点灯します。レックミュート動作中は"REC"が点滅になります。
再生一時停止中か録音待機中は"II"が点灯します。
また現在のトランスポートの走行方向（"►"または"◄"）が常に点灯します。

⑰ カセット入力ソース表示
カセットテープの入力ソースがCDのとき"CD"、アンバランス入力のとき"UNBAL"、バランス入力のとき"BAL"（CD-A750のみ）が点灯します。

⑱ テープ走行カウンター
カセットテープカウンター値を表示します。
フォワード方向に進むとカウンターは進みます。"9999"の次は"0000"に戻ります。
リバース方向に進むとカウンターは減ります。"0000"の次は9999"に戻ります。

第３章　メニュー

本機ではメニューシステムを使って、環境設定やいくつかの機能設定を行います。

メニューの構成

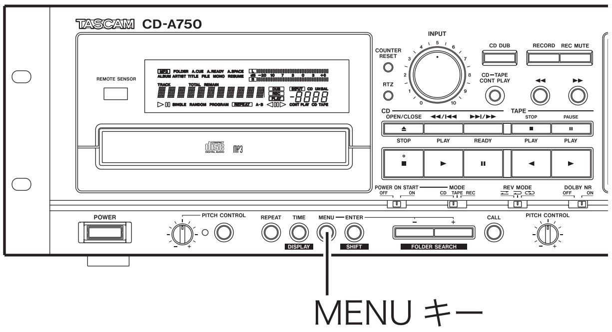
本機のメニューシステムには以下のメニュー項目があります。

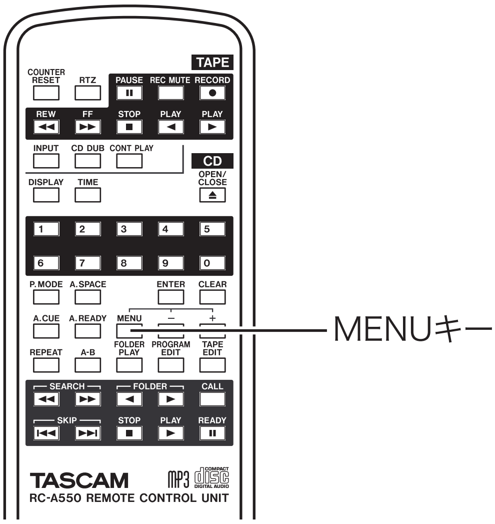
メニュー番号	項目	内容
1	PLAY MODE	再生モード選択
2	AUTO CUE	オートキュー機能の設定
3	AUTO READY	オートレディ機能のオン/オフ
4	AUTO SPACE	オートスペース機能のオン/オフ
5	FOLDER PLAY	フォルダ再生機能のオン/オフ
6	INCREMENTAL PLAY	インクリメンタルプレイ機能のオン/オフ
7	RESUME PLAY	リジューム再生のオン/オフ
8	PROGRAM EDIT	プログラムの編集
9	TAPE EDIT	テープエディットの実行
10	TRAY LOCK	トレーロック機能のオン/ オフ
11	EOM DISPLAY	EOM表示機能の設定
12	TAPE INPUT SOURCE	入力ソースの選択
13	COMMON OUT	COMMON出力ソースの選択
14	MONO OUT	モノラル出力機能のオン/オフ
15	DUBBING LEVEL	CDダビング時の録音レベル（固定/ボリューム）の設定
16	RS232C BAUD RATE	RS232C ボーレートの設定（CD-A750のみ）
17	RS232C DATA LENGTH	RS232C データ長の設定（CD-A750のみ）
18	RS232C PARITY BIT	RS232C パリティビットの設定（CD-A750のみ）
19	RS232C STOP BIT	RS232C ストップビット長の設定（CD-750のみ）
20	FL DIMMER	ディスプレーの輝度設定
21	VERSION	バージョン情報の表示
22	MOTOR TIME	モーター稼働時間の表示
23	DEFAULT	工場出荷時の設定に戻す機能

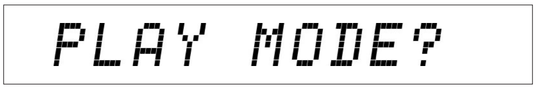
メニューの操作

メニューシステムを使った設定の基本操作手順を以下に示します。ただし、PROGRAM EDIT項目とTAPE EDIT項目は操作が複雑ですので、それぞれ「プログラム再生」（26ページ）、「テープエディット機能を使う」（39ページ）をご覧ください。
また、VERSIONやMOTOR TIME項目を選択した場合、それぞれの情報がディスプレーのメイン表示部に表示されるだけで、設定はありません。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンの**MENU**キーを押します。
   メニューモードに入り、ディスプレーのメイン表示部がメニュー項目選択表示になります。
   前回最後に選択したメニュー項目が最初に表示されます。





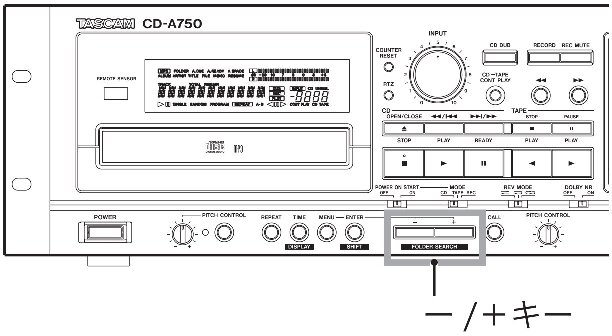


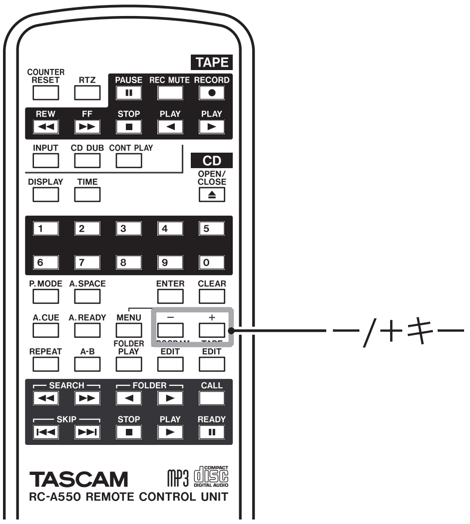
［ ディスプレー・メイン表示 ］

メ モ

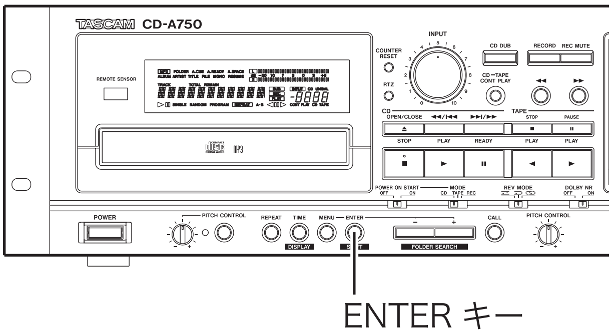
メニュー項目選択表示を表示中に**MENU**キーを押すと、通常表示に戻ります。

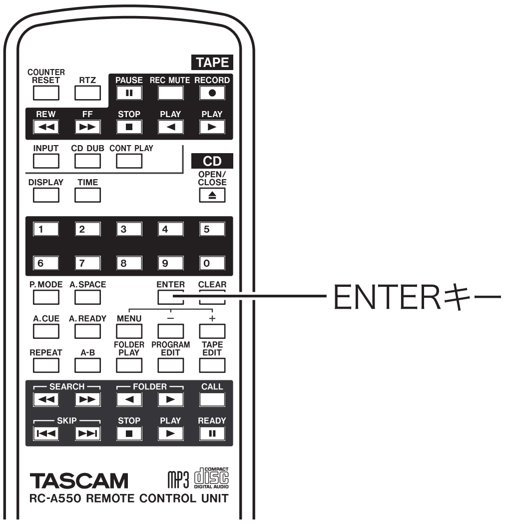
2. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使って、希望のメニュー項目を選択します。

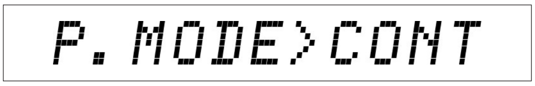




3. 本体またはリモコンのENTERキーを押して確定します。
メニュー項目名と設定値が表示されます。以下の要領で設定を行います。







[ディスプレー・メイン表示]

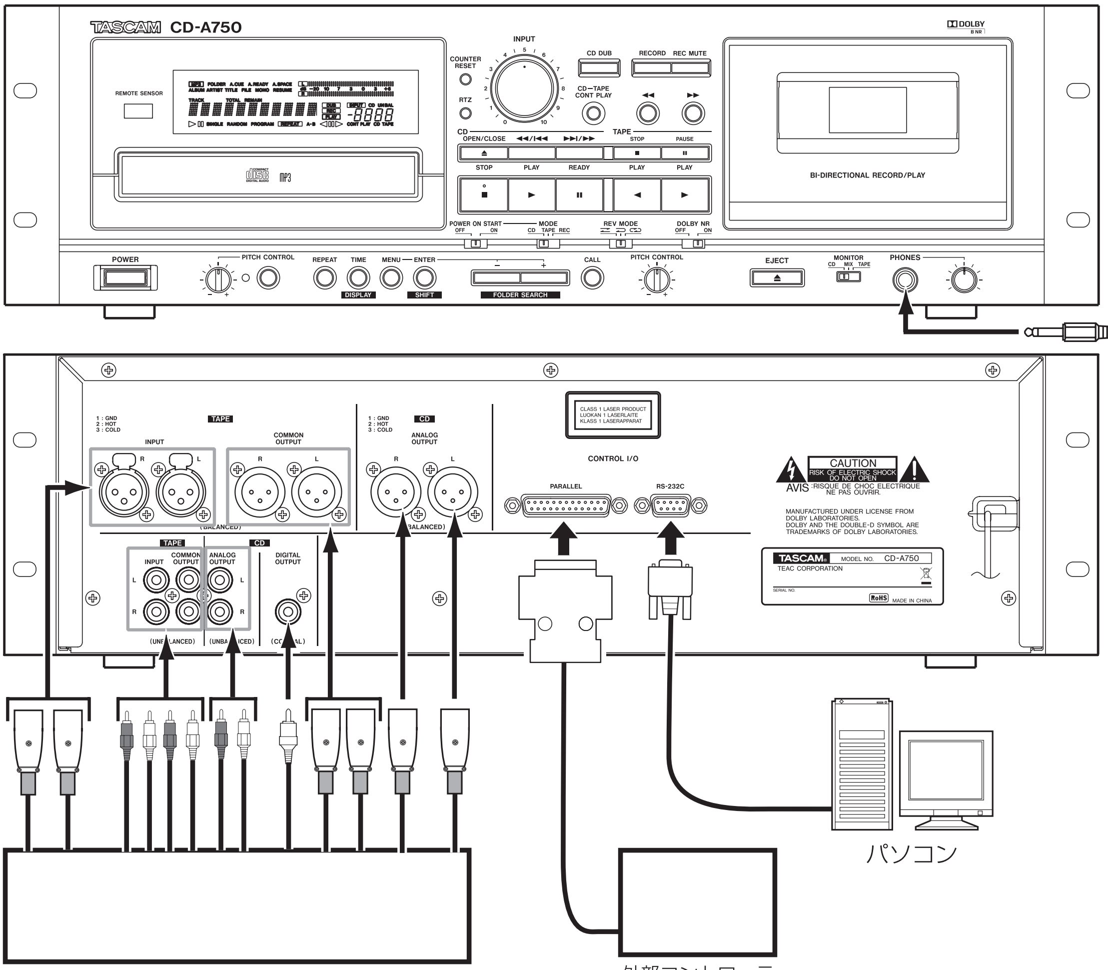
4. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使って希望の値を選択します。
選択がそのまま即座に反映されます。

5. 本体またはリモコンのENTERキーを押します。
ディスプレーが通常表示に戻ります。

メモ

メニュー項目名と設定値を表示中にMENUキーを押すと、メニュー項目選択表示に戻ります。

接続する



ヘッドホンの接続

フロントパネルのPHONES端子にステレオヘッドホンを接続します。ボリュームはPHONES端子の右のPHONESつまみで調節します。

またPHONES端子の左のMONITORスイッチを使って、PHONES端子から出力される音声を選択します。CD音声のみ（CDポジション）、テープ音声のみ（TAPEポジション）、CDとテープのミックス音声（MIXポジション）の中から選択します。

外部オーディオ機器の接続（入力）

外部のオーディオソース（CDプレーヤー、ミキサーなど）を、本機のTAPE INPUT（BALANCEDまたはUNBALANCED）端子に接続します。

入力選択はメニューのTAPE INPUT SOURCE項目を使って行います。

入力ボリュームをフロントパネルのINPUTつまみを使って調節することができます。

外部オーディオ機器の接続（出力）

本機のアナログ出力にはTAPE COMMON OUTPUT端子とCD ANALOG OUTPUT端子があります。CD-A750はそれぞれBALANCED端子（XLR端子）とUNBALANCED端子（RCAピン端子）を装備し、CD-A550はUNBALANCED端子のみを装備しています。

またCD DIGITAL OUTPUT端子からはCD再生信号がS/PDIFフォーマットでデジタル出力されます。

CD OUTPUT端子（ANALOGおよびDIGITAL）からは常にCD再生信号が出力されます。TAPE COMMON OUTPUT端子からはメニューのCOMMON OUT項目で選択した信号が出力されます。（→ 19ページ「COMMON OUTの設定」）

パラレル制御のコントローラー（CD-A750のみ）

外部のコントローラーからCD-A750をパラレル制御するには、PARALLEL端子（25ピンD-Subコネクター）を使います。

PARALLEL端子のピン配列については「パラレル端子を使う」（44ページ）をご覧ください。

なお、PARALLEL端子は外部からの制御信号を入力するだけでなく、各種ステータス情報を出力しますので、外部のディスプレー /ランプを使って本機のステータスを表示したり、本機の動作をトリガーにして他の機器を動作させることなどができます。

RS-232C制御のコントローラー（CD-A750のみ）

外部のエディターやコントローラーからCD-A750をRS-232Cでシリアル制御するには、RS-232C端子（9ピンD-Sub コネクター）を使います。

詳しくは「RS-232C端子を使う」（44ページ）をご覧ください。

COMMON OUTの設定

本機の使用環境に応じて、TAPE COMMON OUTPUT端子の出力信号を選択することができます。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの ー/+キーを使ってメイン表示部に“COMMON OUT?”を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。

   COMMON OUT?

3. 本体またはリモコンの ー/+キーを使って以下の中から希望の値を選択します。

   “TAPE”：常にテープ再生信号を出力します。

   “AUTO”（初期値）：CDまたはテープの再生信号を出力します。両方を同時に再生している場合はテープ信号を優先して出力します。

   “MIX”：CDとテープの再生信号を出力します。両方を同時に再生している場合はミックスした信号を出力します。

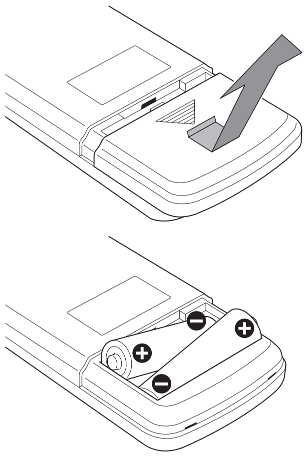
4. ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

ヒント

- CDおよびテープ出力をそれぞれ別々の機器（あるいはミキサーなどの別々のチャンネル）に出力する場合、COMMON OUT項目を“TAPE”に設定すると、CD OUTPUT端子とTAPE COMMON OUTPUT端子からそれぞれCDとテープの信号を個別に出力することができます。
- 一台の外部機器（アンプなど）に本機の出力を送る場合、COMMON OUT項目を“AUTO”または“MIX”に設定すると、本機の状態に応じてCDまたはテープの再生信号が出力されます。

リモコンを準備する

乾電池の入れ方



1. 裏側のふたを開けます。
2. ⊕、⊖ の向きに注意して、単3形乾電池を2本挿入します。
3. ふたを閉めます。

乾電池の交換時期

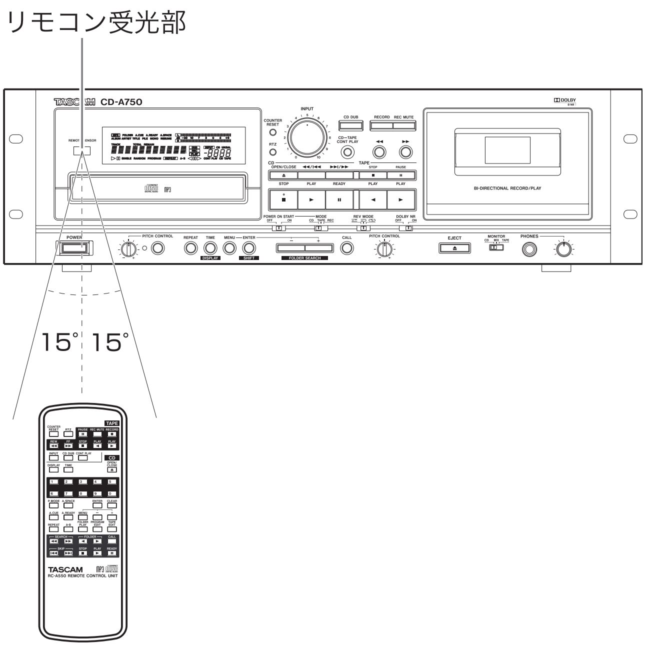
操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本同時に新しい乾電池に交換してください。

乾電池についての注意

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。乾電池の注意表示、および本書4ページをよくお読みください。

リモコン使用上の注意

- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。
- リモコンは以下の範囲内でご使用ください。



動作距離

正面：7メートル以内

左右15度以内：7メートル以内

ディスプレーの輝度を調整する（DIMMER）

本機の使用環境に応じて、ディスプレーの輝度を調整することができます。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの －/＋キーを使ってメイン表示部に“FL DIMMER?”を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。

FL DIMMER?

3. 本体またはリモコンの －/＋キーを使って1〜10の中から希望の値を選択します。
   数値が大きいほどディスプレーが明るくなります。

   選択値：1〜10（初期値：7）
4. ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

本機のCDプレーヤーの再生機能を説明します。

再生可能なディスク

本機のCDプレーヤーは、以下のディスクを再生することができます。

- **CD-DA（オーディオCD）形式のディスク**

  市販のオーディオCDやオーディオCD形式で作成したCD-R、CD-RWディスクを再生できます。本書ではこれらのディスクを「オーディオCD」と呼びます。

- **CD-ROM（データCD）形式のディスク**

  MP3ファイルやWAVファイルを収録したディスクを再生できます。

  本書ではこれらのディスクを「データCD」と呼びます。

メモ

再生可能なMP3ファイルは、サンプリング周波数32kHz/44.1kHz/48kHz、ビットレート32kbps〜320kbpsまたはVBR（可変ビットレート）のファイルです。

再生可能なWAVファイルは、サンプリング周波数8kHz〜48kHz、8bit/16bit のファイルです。

注意

MP3ファイルの圧縮方式がVBRのファイルについて

VBRのファイルはフォーマット上の制約により正確な位置検出ができません。そのため、コール機能やA-Bリピート機能など、トラック途中でのポイント設定が必要になる機能を本機で行う場合、設定時のポイントと再生を開始するポイントで若干のズレが生じることがあります。

データCDのフォルダとトラックについて

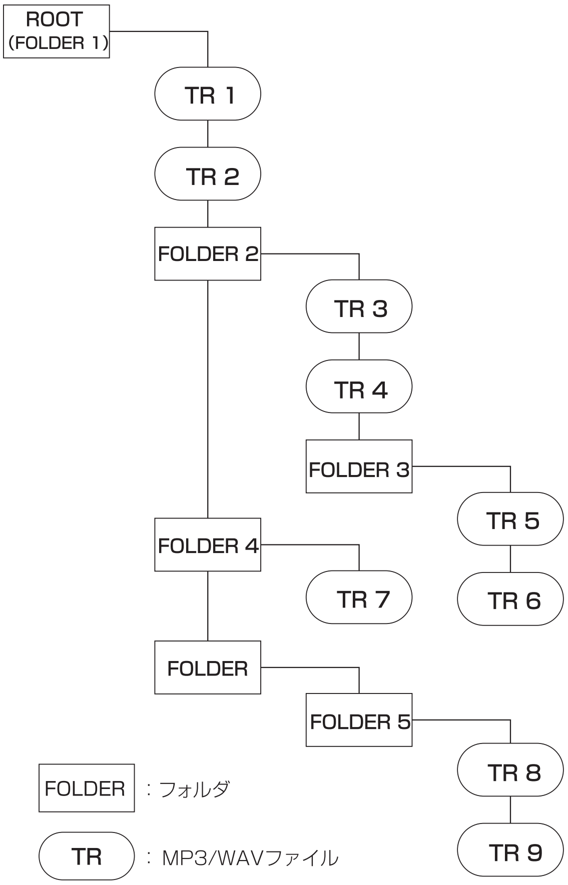
本機はデータCD上の各オーディオファイル（WAVまたはMP3）を「トラック」として扱います。データCD の中には、通常のパソコンのファイルの扱いと同じように、ファイルをフォルダに収納しているものがあります。さらに、いくつかのフォルダをまとめて1つのフォルダに収めるといった、複数階層構造のものもあります。

本機では、各フォルダにフォルダ番号を付けて管理します。フォルダ番号は、階層の浅いフォルダから階層の深いフォルダ（サブフォルダ）に向かってゆく方向で割り当てられます。データCD のルートにオーディオファイルがある場合は、ルートも1つのフォルダとして扱います。

また、各オーディオファイルにはトラック番号を付けて管理します。トラック番号は、フォルダ番号の若いフォルダ内のファイルから順に割り当てられます。

データCDを通常再生すると、オーディオCDと同じように、トラック番号順に再生されます。

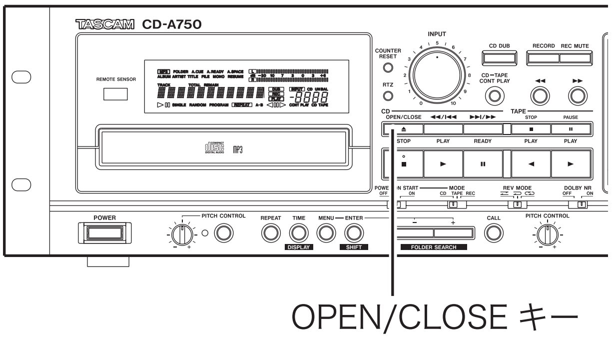
すぐ下の階層にオーディオファイルが収納されていないフォルダにはフォルダ番号が割り当てられません。たとえば下図のような構成のディスクの場合、フォルダ5の上の階層のフォルダには番号が割り当てられません。

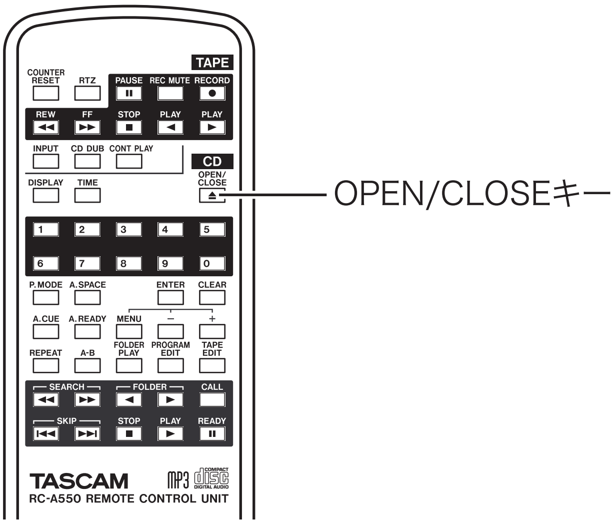


〈データCDの構成例〉

CDをセットする

CDをセットするには、本体またはリモコンのOPEN/CLOSEキーを押して、ディスクトレーを開き、ラベル面を上にしてディスクをのせます。
再度OPEN/CLOSEキーを押して、ディスクトレーを閉じます。
ディスクをセットすると本機がディスクの情報を読み取り、オーディオCDの場合は総トラック数と総再生時間、データCDの場合はカレントフォルダもしくはディスク全体の総トラック数を、ディスプレーに表示します。





メモ

上記でOPEN/CLOSEキーを押してディスクトレーを閉じる代わりに本体またはリモコンのCD用PLAYキー（あるいは本体またはリモコンのREADYキー）を押すと、ディスクトレーを閉じて再生が始まります。

注意

本機を使用中にディスクトレーを開くと、以下の設定が消去されます。

- プログラム
- CALLポイント
- リジュームポイント
- カレントフォルダ（データCDの場合）

トレーロック機能

トレーロック機能をオンに設定すると、再生中および一時停止中のOPEN/CLOSEキー操作が無効になり、ディスクトレーが開かなくなります。このため、誤ったOPEN/CLOSEキー操作による再生の中断を防ぐことができます。初期設定ではトレーロック機能がオフに設定されています。
トレーロック機能をオンにするには、以下のメニュー操作を行います。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの －/＋キーを使ってメイン表示部に“TRAY LOCK?”を表示し、ENTERキーを押します。

TRAY LOCK?

3. －/＋キーを使って“ON”を選択します。

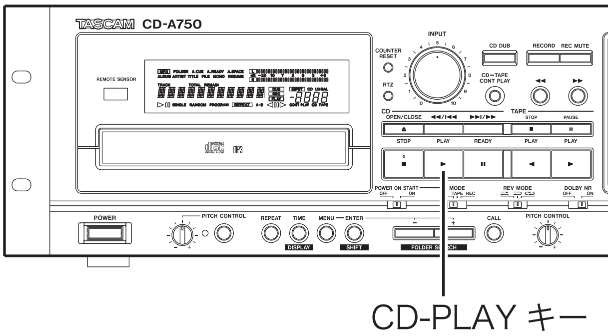
   選択値：OFF（初期値）、ON
4. ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

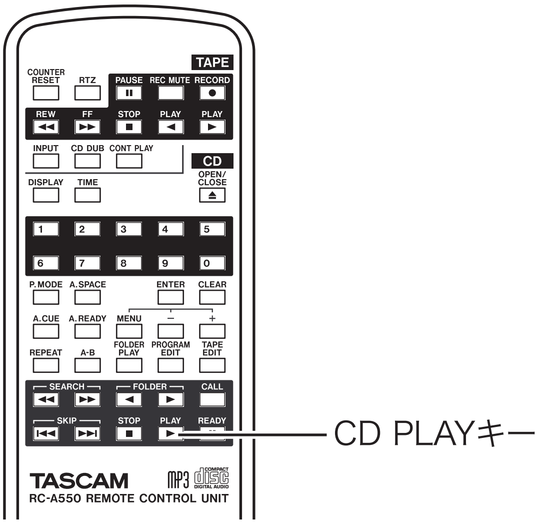
再生する

以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていて、CD（オーディオCDまたはデータCD）がセットされていることを前提にしています。
CDの再生を始めるには、本体またはリモコンのCD用PLAYキーを押します。

ヒント

CDとカセットテープを同時に再生することもできます。





● **再生を停止するには：**

本体またはリモコンのCD用**STOP**キーを押します。

● **再生を一時停止するには：**

本体またはリモコンの**READY**キーを押します。

なお、この取扱説明書では、特に断らない限り、CDの再生モードが**CONTINUE**（連続再生モード）に設定されているものとして説明しています。

曲を選ぶ

曲を選ぶ方法には、前後のトラックに移動する方法（スキップ）と、トラック番号を直接指定する方法があります。また、データCDの場合、前後のフォルダにスキップすることもできます。

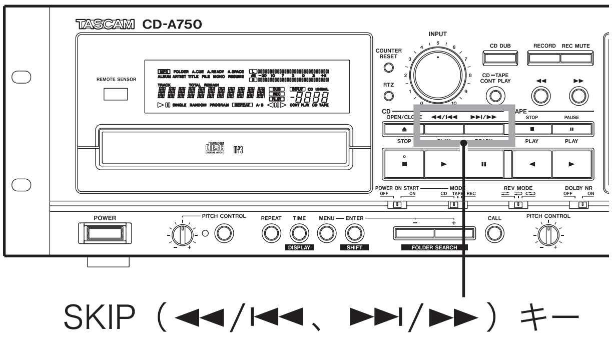
前後のトラックにスキップする

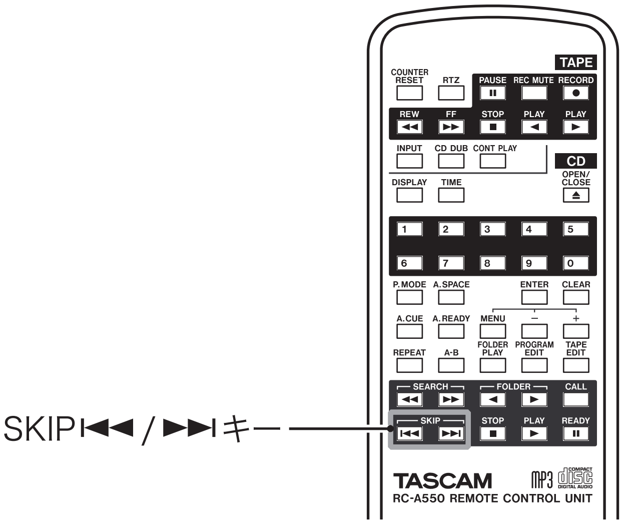
本体の◀◀/I◀◀キー、▶▶I/▶▶キーまたはリモコンの**SKIP I◀◀/▶▶I**キーを押します。なおリモコンの**SKIP I◀◀/▶▶I**キーを押したままにすると、次々とトラックをスキップします。

メモ

再生中にトラックをスキップした場合、選択トラックの再生が始まります。

一時停止中または停止中にトラックをスキップした場合、選択トラックの先頭で一時停止します。



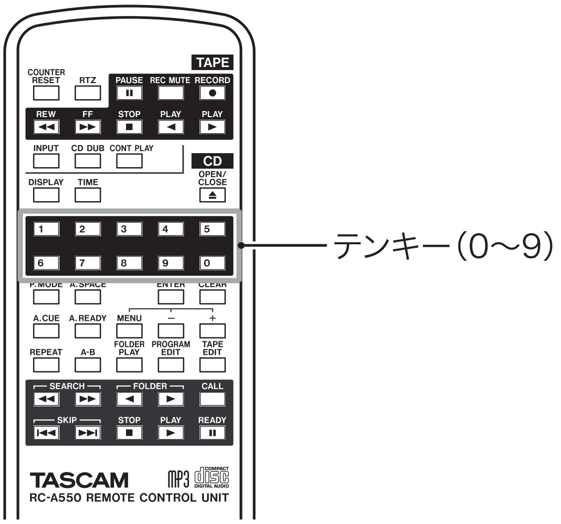


トラック番号を指定する

リモコンのテンキー（**0**〜**9**）を使用して、再生するトラック番号を直接指定することができます。

トラック番号はオーディオCDの場合は最大2桁、データCDの場合は最大3 桁です。

1. リモコンのテンキー（**0**〜**9**）を使って、トラック番号を入力します。トラック番号は高い桁の数字から順に入力します。



●**トラック1を指定する場合:**

1キーを1回押す。

●**トラック12を指定する場合:**

1キー→ 2キーの順に押す。

2. 本体またはリモコンのCD用**PLAY**キーを押します。
選択したトラックの再生が始まります。

メモ

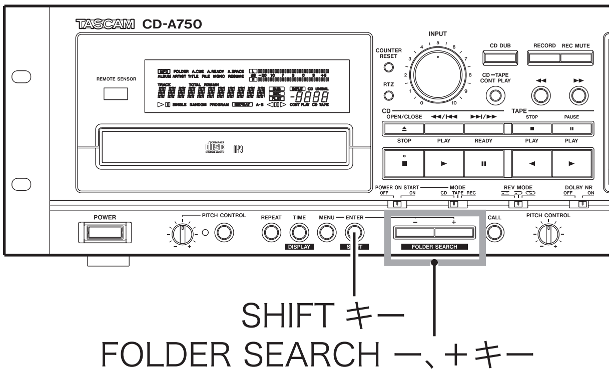
- CD用PLAYキーの代わりにREADYキーを押すと、選択したトラックの先頭で一時停止します。
- CD用PLAYキーの代わりにENTERキーを押すと、上記手順1.でトラック番号を入力する前の状態に応じて、以下の動作を行います。

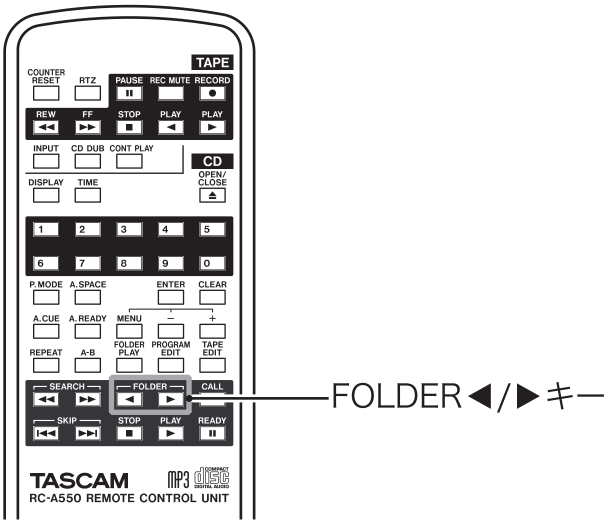
  再生中：選択したトラックの再生が始まります。

  一時停止中/停止中：選択トラックの先頭で一時停止します。
- プログラム、ランダムモード時はテンキーを使ったトラック指定ができません。

フォルダを選ぶ（データCDのみ）

データCDの場合、本体のSHIFTキーを押しながらFOLDER SEARCH ー /＋キーを押すか、またはリモコンのFOLDER ◀/▶キーを押すことによって、前後のフォルダにスキップすることができます。それぞれ、手前または次のフォルダの先頭トラックの先頭にスキップします。なおキーを押したままにすると、次々とフォルダをスキップします。





メモ

フォルダ再生モードがオンのときは、フォルダのスキップに伴ってカレントフォルダも切り換わります。詳しくは「フォルダ再生（データCDのみ）」（24ページ）をご覧ください。

早送り/早戻しサーチ

音声を聞きながらトラック内を早送り/早戻しサーチすることができます。

1. 希望のトラックを再生または一時停止にします。
2. 本体の◀◀/I◀◀キー、▶▶I/▶▶キーまたはリモコンのSEARCH ◀◀/▶▶キーを押し続けます。

   早送り/早戻しサーチが始まります。
3. サーチを止めるには、押し続けているキーを離します。

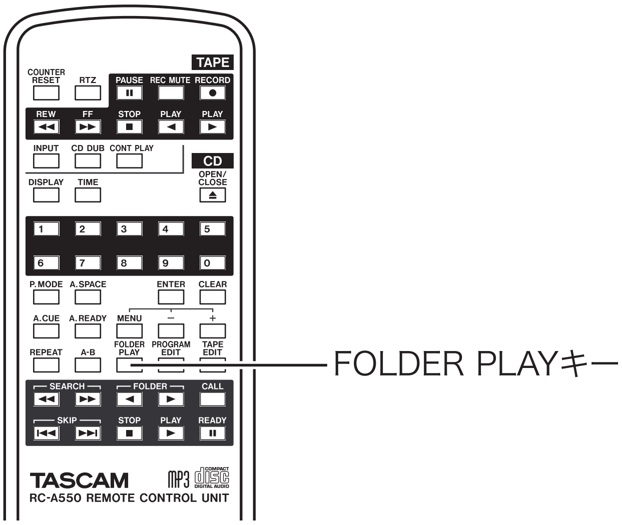
   サーチを始める前の状態（再生または一時停止）に戻ります。

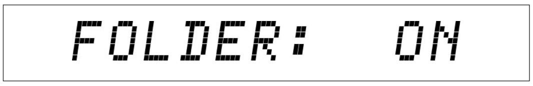
フォルダ再生（データCDのみ）

データCDの場合、フォルダ再生モードをオンにすることにより、指定したフォルダ（＝カレントフォルダ）を再生範囲にすることができます。

リモコンからフォルダ再生モードを設定する

FOLDER PLAYキーを押すと、フォルダ再生モードのオン/オフが切り換わり、ディスプレーに現在の設定が表示されます。





メモ

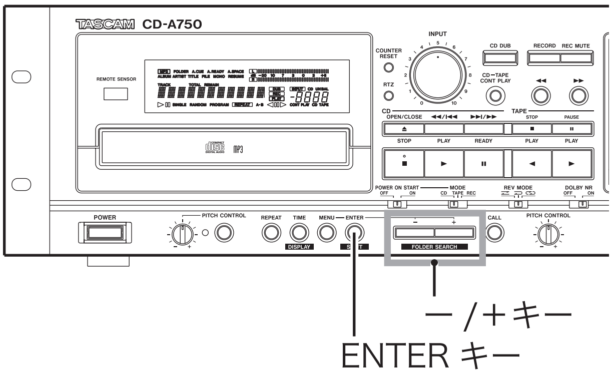
設定表示は2秒後に消えます。

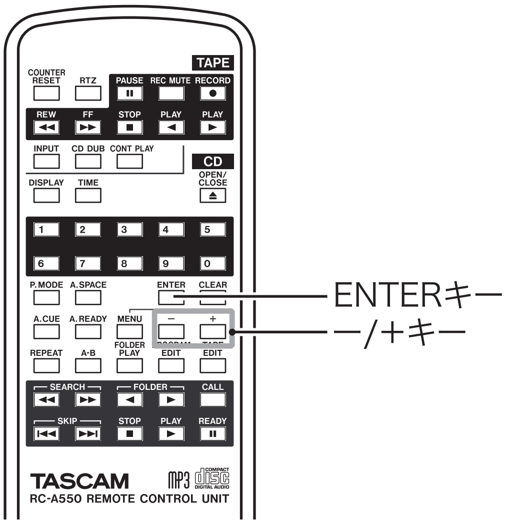
設定を切り換えるには再度FOLDER PLAYキーを押します。
フォルダ再生機能がオンのとき、ディスプレーに“FOLDER”が点灯します。

本体からフォルダ再生モードを設定する

（メニュー操作に関しての詳細は「メニューの操作」（16ページ）をご覧ください。）

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使ってメイン表示部に“FLDR PLAY?” を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。





3. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使って“ON” を選択します。
4. 本体またはリモコンのENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

FOLDER PLAY項目を“OFF” に設定すると、データCD全体が再生範囲になります。

カレントフォルダを選択するには：

本体操作の場合、停止中にSHIFTキーを押しながらFOLDER SEARCH ー /＋キーを押してフォルダを切り換えます。リモコン操作の場合、停止中にFOLDER ◄/►キーを押して切り換えます。
この操作の間、ディスプレーにはフォルダタイトル（アルバムタイトル）が表示されます。
停止中に切り換えた場合、切り換え後にディスプレーが通常表示に戻り、新しいフォルダの先頭で停止します。
再生中/一時停止中に切り換えた場合、上記操作で希望のフォルダに切り換わった後、1秒経過後にフォルダが確定し、ディスプレーにフォルダ名が2秒間表示されます。

メモ

再生モードがプログラムモード時は、再生中/一時停止中のフォルダスキップができません。

注 意

カレントフォルダを切り替えると、以下の設定が消去されます。

- プログラム
- CALLポイント

再生モード

本機は以下の4種類の方法（再生モード）で、トラックを再生することができます。

連続再生（初期設定）

ディスク上のトラックを番号順に再生します。

メモ

データCDでフォルダ再生モード時はカレントフォルダ内のトラックを番号順に再生します。詳しくは「フォルダ再生（データCDのみ）」（24ページ）をご覧ください。

シングル再生

現在選択されているトラックだけを再生し、再生後に停止します。

ランダム再生

ディスク上のトラックを、トラック番号に関係なくランダムに再生します。全トラックの再生を終えると停止します。

メモ

データCDでフォルダ再生モード時はカレントフォルダ内のトラックをランダムに再生します。（ → 24ページ「フォルダ再生（データCDのみ）」）

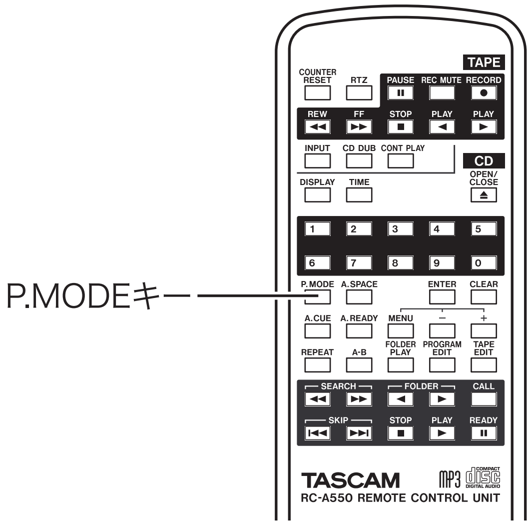
プログラム再生

プログラム登録した順序でトラックを再生します。詳しくは「プログラム再生」（26ページ）をご覧ください。

再生モードを選択する

再生モードの設定は、リモコンの専用キー（P.MODEキー）を使用して簡単に行うことができます。また、メニューモードを使って本体から設定することもできます。

● **リモコンの専用キーを使う場合**



1. リモコンのP.MODE キーを押すたびに、再生モードが切り換わります。但し、再生中/一時停止中はプログラム再生（PROG）を選択できません。プログラム再生を選択するには、停止中またはCDがセットされていないときにP.MODEキーを押してください。ディスプレーに、現在選ばれているモードが次のように表示されます。

ディスプレー	再生モード
無点灯	連続再生
SNGLE	シングル再生
RANDOM	ランダム再生
PROGRAM	プログラム再生

メ モ

- P.MODEキーを押した直後、ディスプレーのメイン表示部に、選択したモードが次のように表示されます。

  連続再生モード選択時：CONT
  シングル再生モード選択時：SNGL
  ランダム再生モード選択時：RNDM
  プログラム再生モード選択時：PROG

- 本取扱説明書では、特に断らないかぎり、連続再生モードが選択されている前提で説明を行います。

●メニュー操作の場合

（メニュー操作に関しての詳細は「メニューの操作」（16 ページ）をご覧ください。）

1. ディスプレーが通常表示のとき、MENUキーを押してメニューモードに入ります。

2. − /+キーを使ってメイン表示部に "PLAY MODE?" を表示し、ENTERキーを押します。

   PLAY MODE?

3. − /+キーを使って希望の再生モード（上記参照）を選択します。

4. ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

設定した再生モードは、電源を切っても保持されます。

プログラム再生

上記の「再生モードを設定する」で述べたように、再生モードとして "PROGRAM" を選択すると、本機はプログラム再生を行います。このモードでは、本体またはリモコンのCD用PLAYキーを押すと設定しているプログラムの1曲目（プログラムステップ "01"）から順に再生を行います。本体の ◀◀/I◀◀ キー、▶▶I/▶▶ キーまたはリモコンのSKIP I◀◀ / ▶▶Iキーを押すと、手前/次のプログラムステップにスキップします。
プログラム再生を行うには、あらかじめプログラムを設定する必要があります。

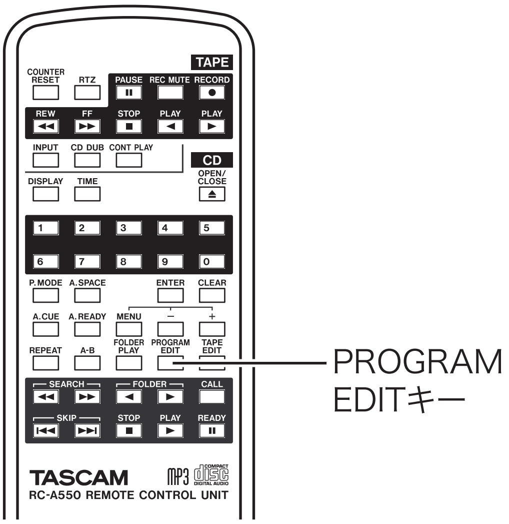
プログラムを設定する

以下に、リモコンを使ってプログラムを設定する手順を説明します。

メ モ

現在の再生モードにかかわらず、いつでもプログラムを設定することができます。

1. 停止中にPROGRAM EDITキーを押します。



プログラム入力モードになり、以下のように表示されます。

TOTAL
0:00/00

[オーディオCDの場合]

TOTAL
---:--/00

[データCDの場合]

プログラム入力モードでは、ディスプレーに総プログラム時間とプログラムされているトラックの数が表示されます（ただしデータCDの場合は総プログラム時間が表示されません）。
プログラムに何も登録されていない状態では、"0:00/00" が表示されます。

メモ

メニューのPROGRAM EDIT項目を選択してプログラム入力モードにすることもできます。（メニュー操作に関しての詳細は「メニューの操作」（16 ページ）をご覧ください。）

2. テンキーまたはSKIP ⏮/⏭キーを使って、プログラムステップ“01”に登録するトラックを選びます。
テンキーを使った場合、左の桁から順に入力されます。

TRACK
01　3:26/01

[オーディオCDの場合]

TRACK
001　/01

[データCDの場合]

ポーズプログラム

例外的に、テンキーを使ってトラック番号**0**を入力すると、ポーズ（一時停止）をプログラムすることができます。プログラム再生中にポーズが設定されているプログラムステップになると、本機のCDプレーヤーが一時停止になり、CD用**PLAY**キーを押さないと先のプログラムステップに進みません。

メモ

データCDの場合、テンキーまたはSKIP ⏮/⏭キーを押してから1秒以上キーを操作しないと、トラック番号表示からファイル名表示に切り換わります。

FILE
FileName001

[ファイル名表示の例]

3. **ENTER**キーを押します。
選んだトラックがプログラムに登録され、プログラム入力モードに戻ります。この状態で次のプログラムステップを登録できます。

4. 上記手順**2.**と**3.**を繰り返して、希望のトラックを順次、登録していきます。

5. プログラム設定を終えたら、プログラム入力モード中に**ENTER**キーまたは**PROGRAM EDIT**キーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

メモ

- 同じトラックを繰り返し登録することも可能です。
- リモコンの**CLEAR**キーを押すと、最後に登録したトラックがプログラムから消去されます。
- CD用**STOP**キーを押すと、プログラムがすべて消去されます。
- 100曲以上を登録しようとすると、エラーメッセージ“**PGM Full!**”が表示されます。登録できるのは99曲までです。
- プログラムしたトラックの総再生時間が999分59秒を越えると、“**---:--**”と表示されます。
- 最初のプログラムステップにはにポーズをプログラムすることができません。
- 2ステップ続けてポーズプログラムを入力することはできません。
- プログラム入力モード時に **−**/**+**キーを使うと表示しているプログラムステップが切り換わり、プログラム内容を確認することができます。
- 電源を切ってもプログラム再生モードは解除されません。またプログラム設定も記憶されています。
- プログラム再生モードでは、トラックが1つもプログラム登録されていないときは、再生が行われません。

プログラムをすべて消去する

上記のように、プログラム入力モード中にCD用**STOP**キーを押すとプログラムをすべて消去することができますが、この他に、以下のいずれかを行うとプログラムがすべて消去されます。

- ディスクトレーを開く。
- フォルダ再生機能のオン/オフ設定を変更する。
- 再生モードを変更する。
- フォルダを切り換える。

プログラムを確認する

プログラムの内容を確認することができます。

1. リモコンの**PROGRAM EDIT**キーを押して本機をプログラム入力モードにします。

2. **+**キーを押すたびに、プログラムステップ1から順に登録トラックが表示されます。
また**−**キーを押すたびに、最後のプログラムステップから逆順に登録トラックが表示されます。

TRACK
001　/01

プログラムを編集する

すでにあるプログラムを編集することができます。

1. リモコンの**PROGRAM EDIT**キーを押して本機をプログラム入力モードにします。

2. **−**/**+**キーを使って、編集したいプログラムステップを選択します。

●トラックを差し替えるには:

テンキーまたはSKIP ⏮/⏭キーを使って登録したいトラックを選択し、**ENTER**キーを押します。
選んだトラックに差し替えられ、プログラム入力モードに戻ります。

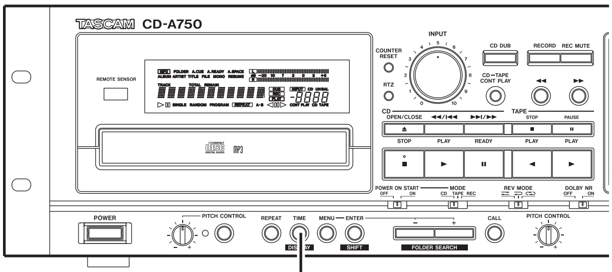
●トラックを消去するには:

リモコンの**CLEAR**キーを押します。
登録しているトラックが消去され、それ以降のトラックのプログラムステップが繰り上がります。

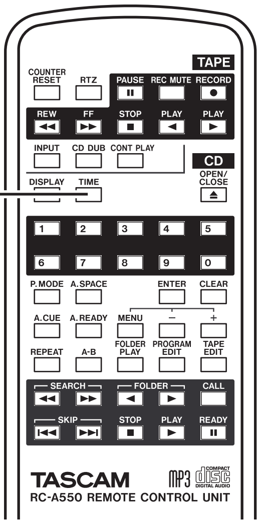
再生時間表示モード

ディスプレーに表示される再生時間の表示モードを選択することができます。

1. 本体のTIME/DISPLAYキー（またはリモコンのTIMEキー）を押します。
   キーを押すたびに3種類の時間表示が切り換わります。現在選ばれている表示モードは、メイン表示部の上に点灯表示されます。



TIME/DISPLAY キー



TIMEキー

点灯なし

現在のトラックの経過時間を表示します。

“REMAIN”が点灯

現在のトラックの残時間を表示します。

“TOTAL”と“REMAIN”が点灯

総残時間を表示します。

メ モ

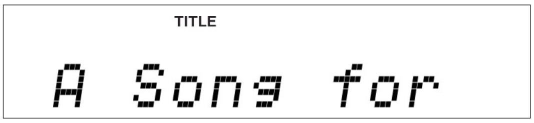
- 停止中は、“TOTAL”、“REMAIN”の点灯状態にかかわらず、常に総時間を表示します。
- データCDの場合、停止中の総時間、再生中の残時間および総残時間が表示されません（トラック数あるいはトラック番号のみが表示され、時間表示は“ーー”表示になります）。
- プログラム再生モードでは、プログラム全体の経過時間や残時間を表示します。
- 時間表示モード設定は、電源を切っても保持されます。

文字情報表示モード

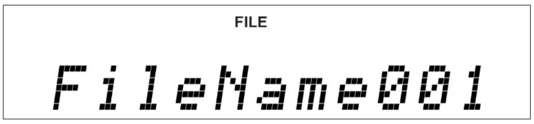
ディスプレーに文字情報を表示することができます。データCDの場合はID3タグ情報、オーディオCDの場合はCDテキスト情報が表示されます。これらの情報がディスクやファイルに記録されていない場合は表示されません。

1. 文字情報を表示するには、本体のSHIFTキーを押しながらTIME/DISPLAYキーを押します（またはリモコンのDISPLAYキーを押します）。押すたびに文字情報内容が切り換わります（以下参照）。

現在選ばれている表示モードは、メイン表示部の上に点灯表示されます。再生中と停止中とで表示内容が異なります。またデータCDとオーディオCDとで表示内容が異なります。



[オーディオCD/データCD タイトル表示の場合]



[データCD ファイル名表示の場合]

再生中

- “TITLE”が点灯
  トラックタイトルを表示します。
- “ARTIST”が点灯
  トラックアーティスト名を表示します。
- “FILE”が点灯（データCDのみ）
  ファイル名を表示します。

停止中

- “ALBUM TITLE”が点灯
  アルバムタイトルを表示します。（オーディオCDのみ）
  フォルダ名かボリュームラベルを表示します。（データCDのみ）
- “ALBUM ARTIST”が点灯（オーディオCDのみ）
  アルバムアーティスト名を表示します。

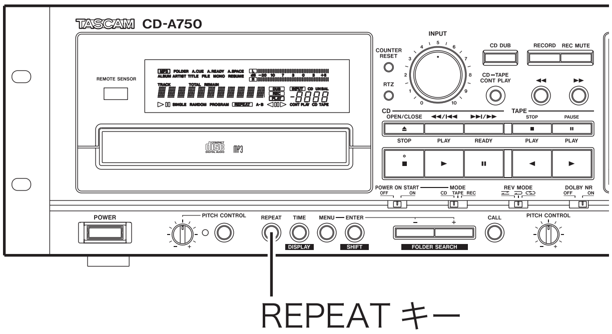
2. ディスプレーを時間表示に戻すには、本体またはリモコンのTIMEキーを押します。

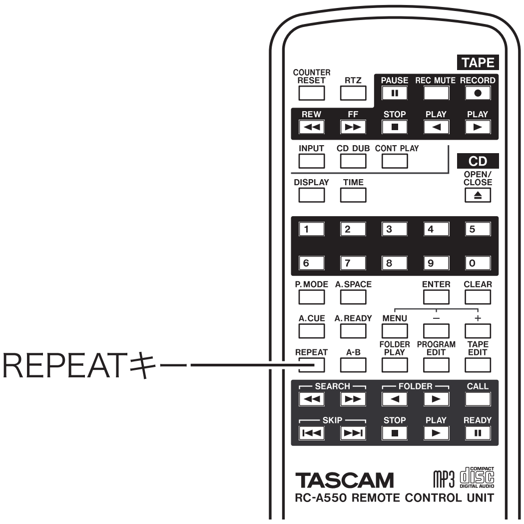
リピート再生

全トラックを繰り返し再生したり、トラック内の任意の区間を繰り返し再生（A-Bリピート再生）することができます。

通常のリピート再生

本体またはリモコンの**REPEAT**キーを押してリピート再生をオンにすると（ディスプレーに **"REPEAT"** が点灯）、全トラックが繰り返し再生されます。





メ モ

- データCDでフォルダ再生機能をオンに設定している場合、カレントフォルダ内のトラックが全トラックになります。
- プログラム再生モード中にリピート再生をオンにすると、プログラムが繰り返し再生されます。シングル再生モード中にリピート再生をオンにすると、選択中のトラックが繰り返し再生されます。
- オートレディ機能がオンの時、リピート機能のオン/オフ設定に関わらず各トラックの先頭で一時停止になります。繰り返し再生を行うには、オートレディ機能をオフにしてください。

再生中にリピート再生をオンにした場合は、そのまま再生を続け、最後まで再生すると先頭に戻って再生を続けます。停止中にオンにした場合は、CD用**PLAY**キーを押すとリピート再生が始まります。

リピート再生をオフにするには、本体またはリモコンの**REPEAT**キーをもう一度押します（ディスプレーの **"REPEAT"** が消灯します）。

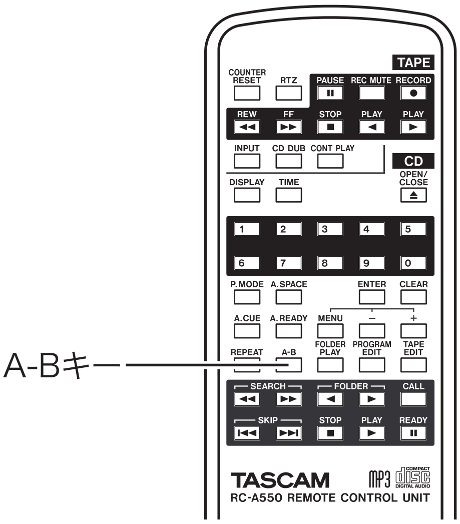
メ モ

リピート機能のオン/オフ設定は、電源を切っても保持されます。

A-Bリピート再生

トラック内の任意の区間（A-B）を指定して、繰り返し再生することができます。

1. 再生中または一時停止中に、リピート再生区間の始点（A）にしたい位置で、リモコンの**A-B**キーを押します。
ディスプレーに **"REPEAT"** と **"A"** が点灯し、**"B"** が点滅します。



メ モ

REPEATキーを押すと、リピート再生の始点（A）が解除され、**"REPEAT"** と **"A-"** が消灯します。

2. リピート再生区間の終点（B）にしたい位置で、再度リモコンの**A-B**キーを押します。
ディスプレーに（**"REPEAT"** に加えて）**"A-B"** が点灯します。
これで区間（A-B）が確定し、A-B リピート再生が始まります。

メ モ

トラックをまたいでのA-Bリピート再生はできません。

● A-Bリピート再生を解除するには:

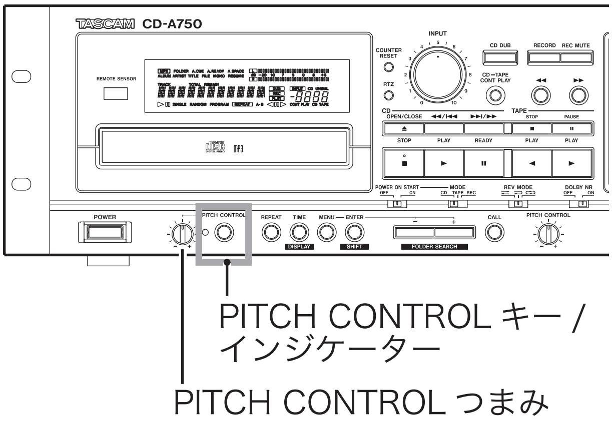
リモコンの**A-B**キーまたは**REPEAT**キーを押します。
ディスプレーの **"REPEAT"** と **"A-B"** が消灯し、A-Bリピート再生が解除されます。

メ モ

- A-Bリピート再生中に解除した場合は、B点を越えても再生が続きます。
- CD用**STOP**キーを押して停止状態にすると、指定した区間（A-B）が消去されます。

ピッチコントロール

CDのピッチ（音の高さと再生の速さ）を変えて再生することができます（ピッチコントロール再生）。
ピッチコントロール再生を行うには、以下の操作を行います。



1. 本体のPITCH CONTROLキーを押して、ピッチコントロール再生をオンにします。
PITCH CONTROLキー脇のインジケーターが点灯します。

2. 本体のCD用PITCHつまみを回してピッチを設定します。
－12.5% ～＋12.5%の範囲で設定することができます。

●ピッチコントロール再生をオフにするには:

本体のPITCH CONTROLキーを押します。
PITCH CONTROLインジケーターが消灯し、ピッチコントロール再生がオフになります。

注 意

- 再生中にピッチコントロール再生のオン/オフを切り換えると、再生音が瞬間的に途切れることがあります。
- データCD（MP3、WAV）をピッチコントロール再生すると、再生音が途切れる場合があります。

オートキュー機能（オーディオCDのみ）

オートキュー機能をオンにすると、トラックを選択したときに、トラック冒頭の無音部分をスキップしてトラックの実際の「信号」が立ち上がる位置で一時停止します。そのため再生を始めた直後に音が出ます。

メ モ

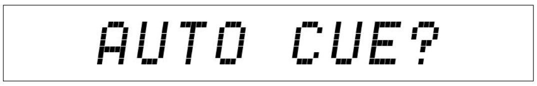
- データCDに対してはオートキュー機能を使えません。
- オートキュー機能がオンのとき、再生中にトラックを選択した場合であっても、トラック選択後に「信号」が立ち上がる位置で一時停止します。

なおオートキュー機能動作時におけるオーディオ信号検出のスレッショルドレベル（＝オートキューレベル）を設定することができます。すなわち、本機はオートキューレベル以上の信号を「信号」、オートキューレベル以下の信号を「無音」として扱います。

以下の手順で、メニューを使ってオートキュー機能のオン/オフおよびオートキューレベルの設定を行います。
（メニュー操作に関しての詳細は「メニューの操作」（16ページ）をご覧ください。）

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。

2. 本体またはリモコンの －/+キーを使ってメイン表示部に“AUTO CUE?”を表示し、ENTERキーを押します。



3. －/+キーを使って希望の値を選択します。
以下の中から選択することができます。“OFF”以外の値を選んだ場合はオートキュー機能がオンになり、それぞれの数値がオートキューレベルになります。
選択値：OFF（初期値、オートキュー機能オフ）、−24dB、−30dB、−36dB、−42dB、−48dB

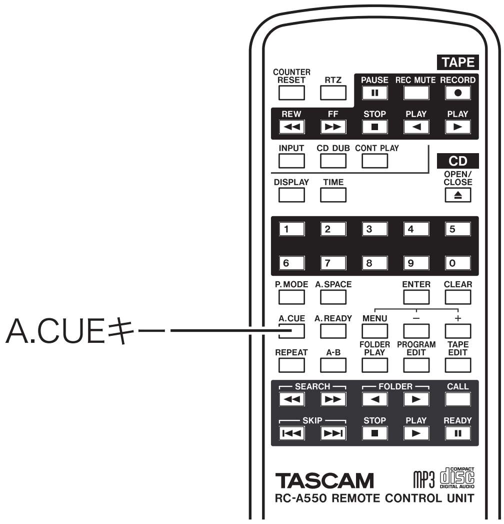
4. ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。
オートキュー機能がオンのとき、ディスプレーに“A.CUE”が点灯します。

メ モ

- オートキュー設定は、電源を切っても保持されます。
- データCDではオートキュー機能を使えません。

リモコンの専用キーでオン/オフを切り換える

リモコンのA.CUE キーを押すと、オートキュー機能のオン/オフが切り換わります。

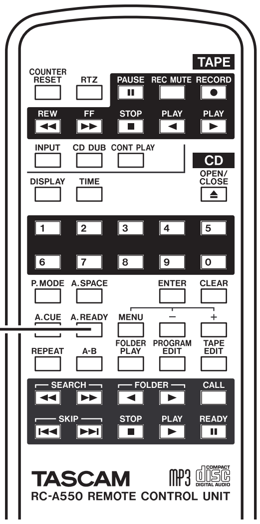


メ モ

- オートキュー設定は、電源を切っても保持されます。
- A.CUEキーの操作ではオートキューレベルを設定することはできません。

オートレディ機能

オートレディ機能をオンにすると、トラックの再生が終了した後、次のトラックの先頭で一時停止になります。
リモコンの**A.READY**キーを押すと、オートレディ機能のオン/オフが切り換わります。
オートレディ機能がオンのとき、ディスプレーに"**A.READY**"が点灯します。


A.READYキー

本体でオン/オフを切り換える

メニューを使って、本体からオートレディ機能のオン/オフを行うこともできます。（メニューの操作に関しての詳細は「メニューの操作」（16ページ）をご覧ください。）

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使ってメイン表示部に"AUTO READY?"を表示し、ENTERキーを押します。

```
AUTO READY?
```

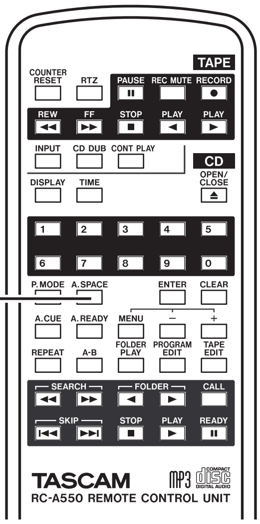
3. ー /＋キーを使って"ON"または"OFF"を選択します。
   選択値：OFF（初期値）、ON
4. ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

メモ

オートレディ設定は、電源を切っても保持されます。

オートスペース機能

オートスペース機能をオンにすると、再生トラックの間に4秒間のスペースが自動的に作られます。
すなわち、再生トラックが次のトラックに移るときにCD再生を一時停止し、4秒後に次のトラックの再生を始めます。
リモコンの**A.SPACE**キーを押すと、オートスペース機能のオン/オフが切り換わります。
オートスペース機能がオンのとき、ディスプレーに"**A.SPACE**"が点灯します。


A.SPACEキー

メモ

オートスペース機能を使うにはオートレディ機能をオフにしていなければなりません。オートレディ機能がオンのとき、オートスペース機能は動作しません。

本体でオン/オフを切り換える

メニューを使って、本体からオートスペース機能のオン/オフを行うこともできます。（メニューの操作に関しての詳細は「メニューの操作」（16ページ）をご覧ください。）

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使ってメイン表示部に"AUTO SPACE?"を表示し、ENTERキーを押します。

```
AUTO SPACE?
```

3. ー /＋キーを使って"ON"または"OFF"を選択します。
   選択値：OFF（初期値）、ON
4. ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

メモ

オートスペース設定は、電源を切っても保持されます。

インクリメンタルプレイ

インクリメンタルプレイ機能をオンにすると、再生中にCD用**PLAY**キーを押したときに次のトラックの先頭から再生を行い、再生中にCD用**STOP**キーを押したときに次のトラックの先頭で一時停止します。

メモ

インクリメンタルプレイ機能オンのとき、一時停止中にCD用**PLAY**キーを押すとその位置から再生を開始し、一時停止中にCD用**STOP**キーを押すと停止します。
なお最終トラックを再生中にCD用**PLAY**キーを押すと先頭のトラックから再生を行い、CD用**STOP**キーを押すと先頭のトラックで一時停止します。

メニューを使ってインクリメンタル機能のオン/オフを行います。（メニューの操作に関しての詳細は「メニューの操作」（16ページ）をご覧ください。）

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンの**MENU**キーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの **－**/**＋**キーを使ってメイン表示部に **"INCR PLAY?"** を表示し、**ENTER**キーを押します。

```
INCR PLAY?
```

3. **－**/**＋**キーを使って **"ON"** または **"OFF"** を選択します。

   選択値：**OFF**（初期値）、**ON**

4. **ENTER**キーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

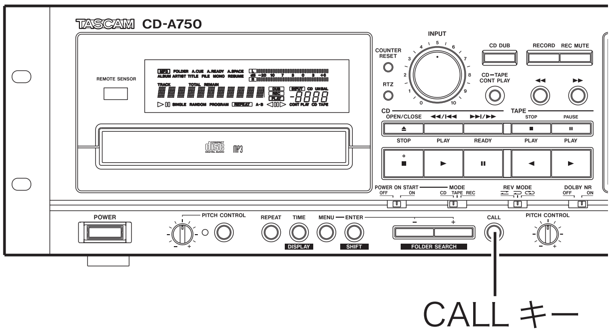
インクリメンタルプレイ機能がオンのとき、再生時にディスプレーに **"TRACK"** が点滅します。

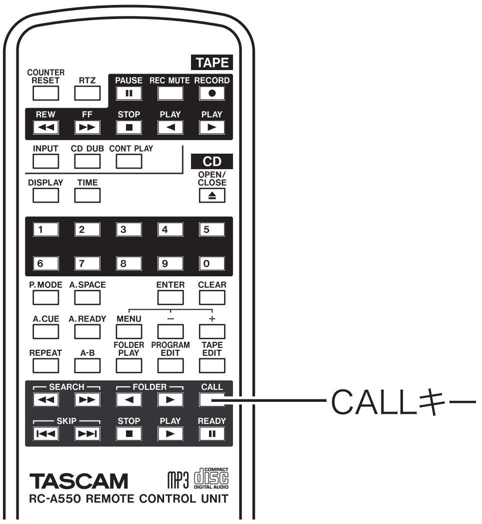
メモ

インクリメンタルプレイ設定は、電源を切っても保持されます。

コール機能

コール機能とは、最後に一時停止から再生を開始したポイント（コールポイント）に戻って一時停止する機能です。
コール機能を実行するには、再生中または停止中、本体またはリモコンの**CALL**キーを押します。





コールポイントは以下の操作を行うと消去されます。

- 電源を切る。
- ディスクトレーを開く。
- 再生モードを切り換える。
- フォルダ再生機能のオン/オフ設定を変更する
- フォルダを切り換える。

メモ

- コールポイントが設定されていないときに**CALL**キーを押すと、メイン表示部に **"No Call Pt!"** が表示されます。
- ランダム再生モードでは、コール機能を使用できません。

リジューム再生

リジューム再生機能をオンにすると、前回再生を停止した位置（リジュームポイント）から再生を開始することができます。
リジューム再生機能がオンのとき、ディスプレーに **“RESUME”** が点灯します。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンの**MENU**キーを押してメニューモードに入ります。

2. 本体またはリモコンの **ー /＋**キーを使ってメイン表示部に **“RESUME?”** を表示し、本体またはリモコンの**ENTER**キーを押します。

```
RESUME?
```

3. 本体またはリモコンの **ー /＋**キーを使って **“ON”** または **“OFF”** を選択します。

   選択値：**OFF**（初期値）、**ON**

4. **ENTER**キーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

メモ

- リジュームポイントのオン/オフ設定は、電源を切っても保持されます。
- 以下の操作のいずれかを行うとリジュームポイントが消去されます。

  ・ディスクトレーを開く。
  ・フォルダ再生機能のオン/オフ設定を変更する。
  ・フォルダを切り換える。
  ・再生モードを変更する。

EOM機能

EOM（End Of Message）機能をオンにしておくと、オーディオCD再生時にトラックの残り時間が設定した時間になったとき、本機の再生時刻表示が点滅を始めます。またCD-A750では、この状態のときに**CONTROL I/O - PARALLEL**端子からEOMタリー信号が出力されますので、このタリー信号を利用して外部のランプを点灯するなどの使い方が可能です。
メニューを使って、EOM機能の設定を行います。（メニューの操作に関しての詳細は「メニューの操作」（16ページ）をご覧ください。）

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンの**MENU**キーを押してメニューモードに入ります。

2. 本体またはリモコンの **ー /＋**キーを使ってメイン表示部に **“EOM DISP?”** を表示し、**ENTER**キーを押します。

```
EOM DISP?
```

3. **ー /＋**キーを使って以下の中から希望の値を選択します。

   選択値：**OFF**（初期値、EOM機能が働きません）、**5sec**、
   10sec、**15sec**、**20sec**、**25sec**、**30sec**、**35sec**

   “OFF” 以外はEOM機能がオンで、それぞれの秒数は、残り時間の何秒前に本機の再生時刻表示が点滅を始めるかを表します。

4. **ENTER**キーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

メモ

この設定は、電源を切っても保持されます。

タリー信号の実際の使用方法（CD-A750のみ）

1. 上記の方法で、メニューのEOM DISPLAY項目を **“OFF”** 以外の値に設定します。

2. EOMタリー信号を受信する機器を**CONTROL I/O - PARALLEL**端子経由で本機と接続します。**PARALLEL**端子のピン配列については「パラレル端子を使う」（44ページ）をご覧ください。

3. 本機および受信機器の電源を入れます。

4. 本機のCDの再生を始めます。
   再生中のトラック残り時間が設定された時間以下になると、**CONTROL I/O - PARALLEL**端子からEOMタリー信号が出力されます。

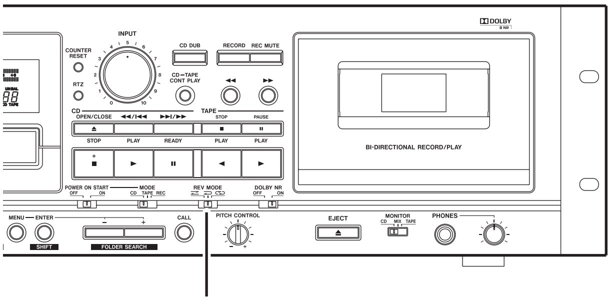
第 6 章　カセットテープの再生

本機のカセットレコーダーを使った再生機能を説明します。
以下の説明は、本機の電源がオンで、信号を録音したカセットテープがA面を手前に装着されていることを前提としています。

再生の準備

リバースモードを選ぶ

REV MODEスイッチを使ってリバースモードを設定します。

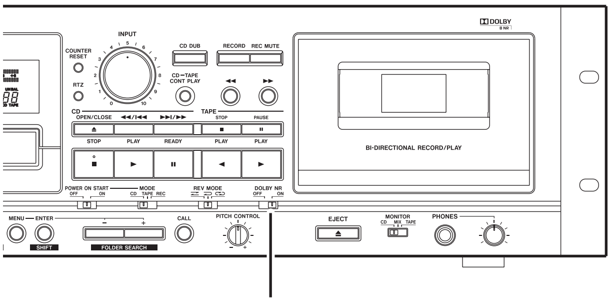


REV MODE スイッチ

- ：A面とB面を繰り返し5往復再生します。
- ：A面とB面を両面再生して停止します。
- ：A面またはB面を片面再生して停止します。

ドルビーノイズリダクションのオン/オフを選ぶ

ドルビー Bノイズリダクションを使って録音したテープを再生するときは、**DOLBY NR**スイッチを**ON**にします。



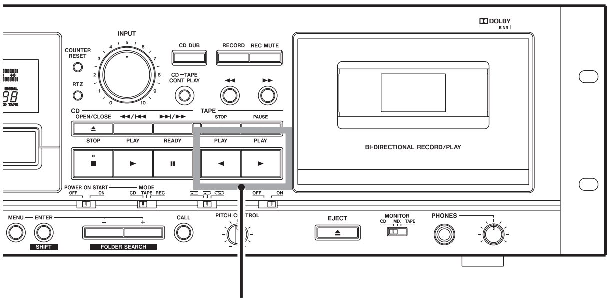
DOLBY NR スイッチ

メモ

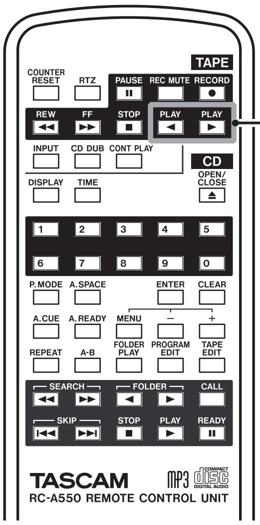
録音時のドルビー Bノイズリダクションのオン/オフ設定に合わせて、設定してください。

再生する

A面を再生する場合は本体またはリモコンのTAPE用**PLAY［►］**キー、B面を再生する場合は**PLAY［◄］**キーを押します。



TAPE 用 PLAY キー



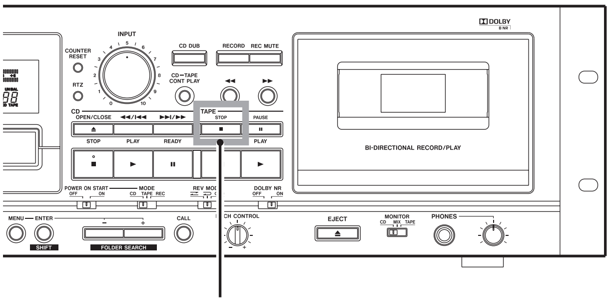
TAPE 用 PLAY キー

ヒント

CDとカセットテープを同時に再生することもできます。

● **再生を止めるには:**

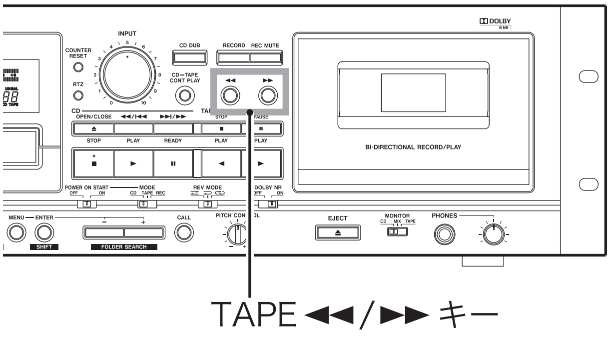
TAPE用**STOP**キーを押します。

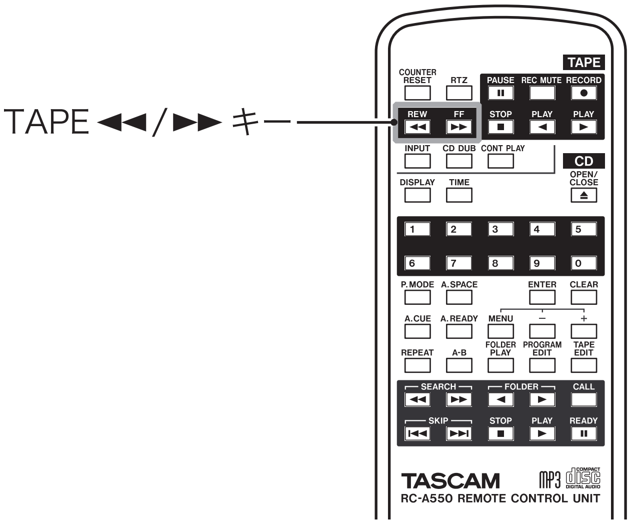


TAPE 用 STOP キー

●早送り/巻戻しをするには:

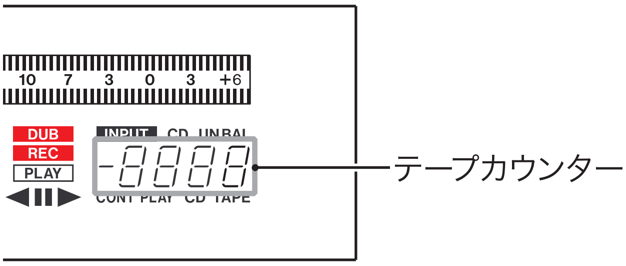
本体またはリモコンのTAPE用▶▶ キー / ◀◀キーを押します。中断したいときはTAPE用**STOP**キーを押してください。



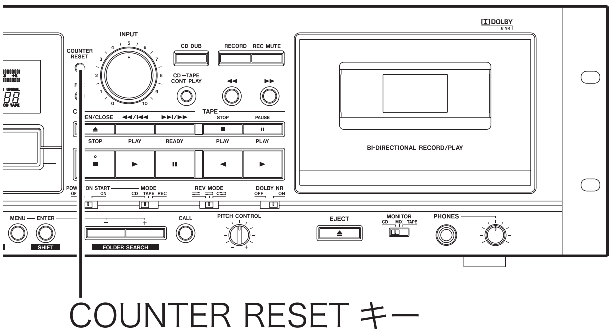


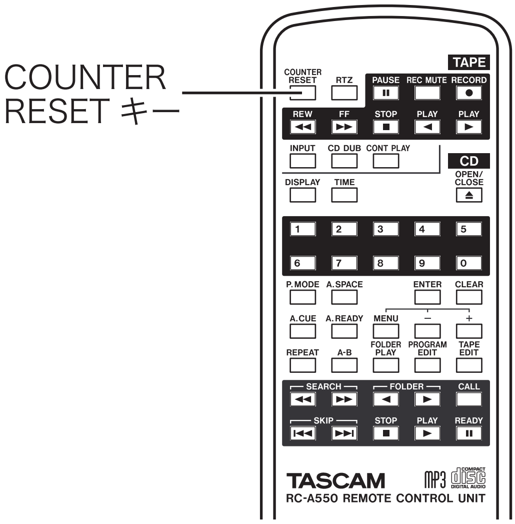
テープカウンター

テープを左から右に走行するとテープカウンター値が増え、右から左に走行すると値が減ります。

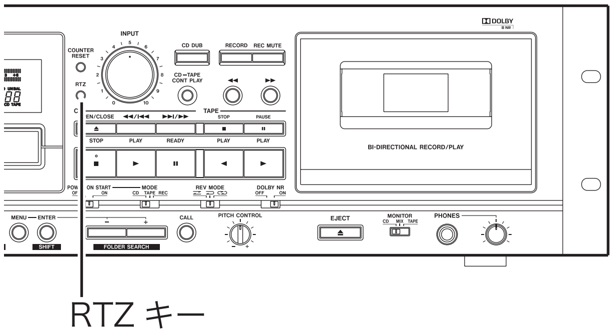


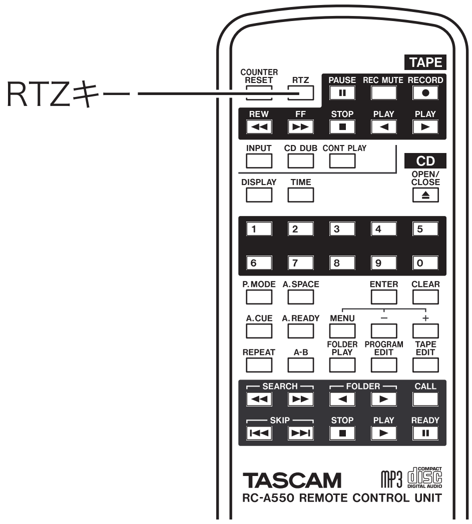
本体またはリモコンの**COUNTER RESET**キーを押すと、テープカウンターが **"0000"** にリセットされます。





RTZ





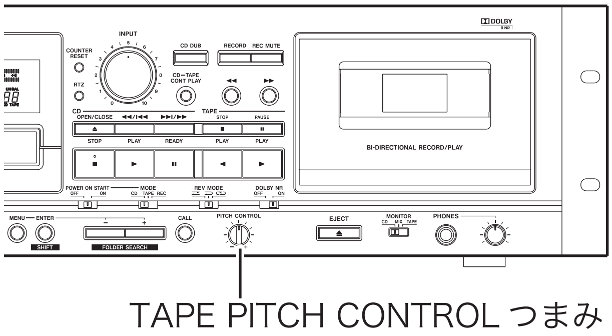
本体またはリモコンの**RTZ**キーを押すと、カセットテープがカウンターゼロポイント（**0000**）にロケートします。ただし **"9996"** ～ **"0004"** の間は**RTZ**キーを押しても **"0000"** にロケートしません。

ヒント

RTZはReturn to Zeroの略語です。

ピッチコントロール

カセットレコーダーの再生時にピッチを変えることができます。



本体のTAPE用**PITCH CONTROL**つまみを右に回すと再生スピードが速くなり再生音の高さが上がります。左に回すと再生スピードが遅くなり再生音の高さが下がります。つまみのセンターにはクリックがあり、この位置が標準ピッチです。
ピッチの可変範囲は約±10%です。

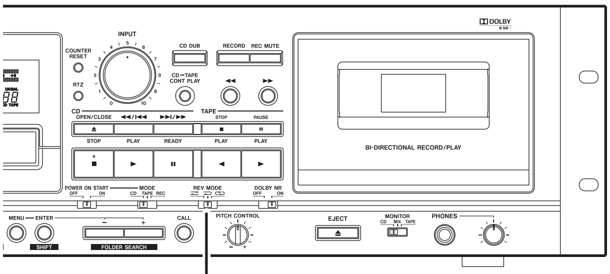
メモ

- リモコンからカセットのピッチをコントロールすることはできません。
- CDのピッチコントロールにはオン/オフを行うキー（**PITCH CONTROL**キー）がありますが、カセットレコーダーのピッチコントロールにはオン/オフを行うキーがありません。標準ピッチで再生を行うには、**PITCH CONTROL**つまみをセンター（クリック）位置にセットしてください。

本機のカセットレコーダーを使って録音を行うことができます。
以下に、リバースモードの設定、ドルビー NRの設定、入力の選択といった録音の準備から実際の録音を開始するまでの手順を説明します。
以下の説明は、本機の電源がオンで、録音可能な（ツメの折れていない）カセットテープが装着されていることを前提としています。

録音の準備

リバースモードを選ぶ



REV MODE スイッチ

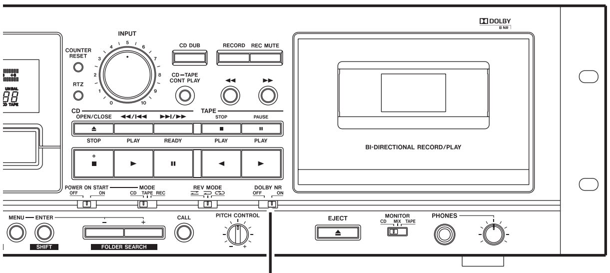
REV MODEスイッチを使って、片面録音または両面録音を選択します。

⊐：A面とB面の両面を録音後に停止。
⇄：A面またはB面の片面を録音後に停止。

メモ

⊂⊃を選択した場合、⊐選択時と同じ動作を行います。すなわちA面とB面の両面を録音後に停止します。

ドルビーノイズリダクションのオン/オフを選ぶ



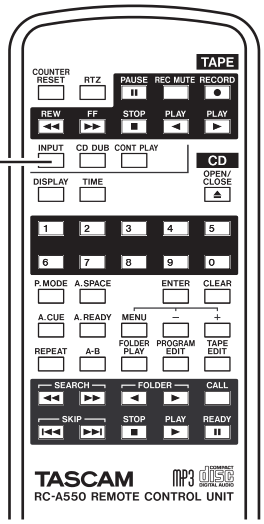
DOLBY NR スイッチ

ドルビー（Bタイプ）を入れて録音したいときには、本体のDOLBY NRスイッチをON にします。

録音ソースを選ぶ

● リモコンの専用キーを使う場合

リモコンのINPUTキーを使って、希望の入力ソースを選択します。キーを押すたびに入力ソースが切り換わり、ディスプレーのメイン表示部に入力ソースが表示されます。



INPUTキー

“INPUT CD”：本機のCDプレーヤーの再生信号がソースになります。

“INPUT UNBAL”：リアパネルのTAPE INPUT（UNBALANCED）端子の入力信号がソースになります。

“INPUT BAL”（CD-A750のみ）：リアパネルのTAPE INPUT（BALANCED）端子の入力信号がソースになります。

● メニューを使う

メニューを使って録音ソース信号（＝入力ソース）を選択することができます。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。

2. 本体またはリモコンの －/＋キーを使ってメイン表示部に“TAPE INPUT?”を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。

```
TAPE INPUT?
```

3. 本体またはリモコンの －/＋キーを使って入力ソースを以下の中から選択します。

   CD：本機のCDプレーヤーの再生信号がソースになります。

   UNBAL（初期値）：リアパネルのTAPE INPUT（UNBALANCED）端子の入力信号がソースになります。

   BAL（CD-A750のみ）：リアパネルのTAPE INPUT（BALANCED）端子の入力信号がソースになります。

4. 本体またはリモコンのENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。に戻します。

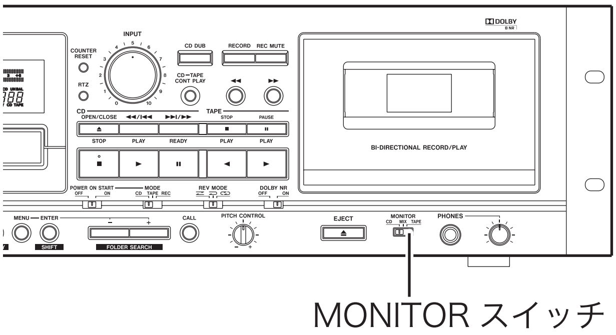
メモ

CDを録音する場合、CDダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については「CDをテープにダビングする」（38ページ）をご覧ください。

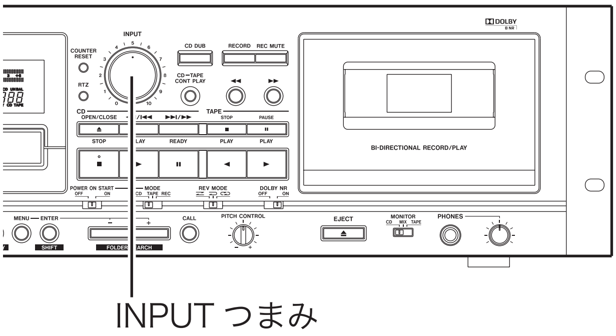
録音する

上記の準備が整ったら、録音レベルを設定してから録音を行います。

1. 本体またはリモコンの**RECORD**キーを押します。
   録音待機状態になり、ディスプレー上ではメーターが入力レベルを表示し、**"REC"** が点灯します。
   また**TAPE COMMON OUTPUT**端子から録音ソースの音が出力されます。なお**MONITOR**スイッチを**MIX**または**TAPE**に設定すると、**PHONES**端子からも出力されます。



2. 録音レベルを設定します。
   録音ソースを再生し、メーターを見ながら最適レベルになるように、本体の**INPUT**つまみを使って調節します。
   一番レベルの高いときのメーターの指示が0dBぐらいになるように設定します。



3. テープ走行方向を確認/選択します。
   ディスプレーのリバース/フォワード表示（**"◀"** または **"▶"**）が、現在のテープ走行方向を示しています。逆の方向に録音したい場合は、録音方向のTAPE用**PLAY**キーを押すとテープ走行方向が変わります。

4. 本体またはリモコンのTAPE用**PLAY**キーまたは本体またはリモコンの**PAUSE**キーを押して録音を開始します。

● 録音を止めるには：

TAPE**用STOP**キーを押します。

● 録音を一時停止するには：

PAUSEキーを押します。この状態から録音を再開するには**PAUSE**キーまたはTAPE**用PLAY**キーを押します。

レックミュート機能

録音中に本体またはリモコンの**REC MUTE**キーを押すと、約4秒間の無信号録音が行われた後、一時停止します。録音を再開するには本体またはリモコンのTAPE用**PLAY**キーまたは本体またはリモコンの**PAUSE**キーを押します。
4秒以上のスペースを作るには本体またはリモコンの**REC MUTE**キーを4秒以上押し続けます。4秒以上押し続けて指を離したときに一時停止状態になります。
4秒以下のスペースを作るには、無信号録音中に**PAUSE**キーを押すと、直ちに録音一時停止状態になります。

メモ

- 無信号録音中に再度**REC MUTE**キーを押すと、通常の録音が再開されます。
- 録音一時停止中に**REC MUTE**キーを押すと、約4秒間の無信号録音が行われた後、一時停止します。

CDをテープにダビングする

本体またはリモコンの**CD DUB**キーを使って、本機にセットしたCDをワンタッチでカセットテープにダビングすることができます（CDダビング機能）。

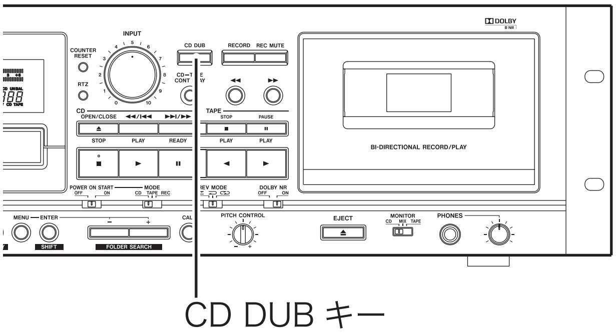
メモ

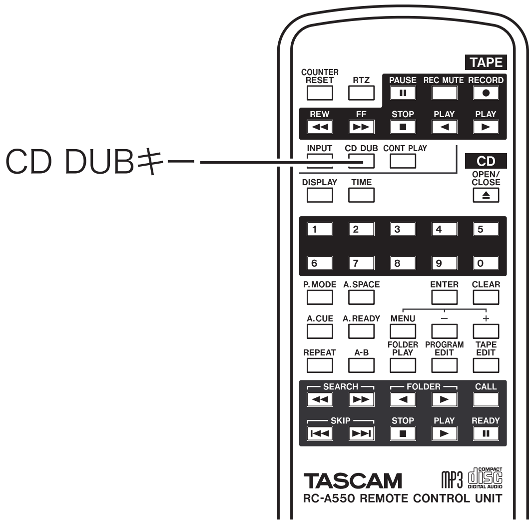
- 入力ソースを選択する必要はありません。
- 録音レベルは初期設定では自動的に設定されます。ただし手動で設定することもできます（ → 39ページ「録音レベルを調整してダビングする」）。
- CDダビングの際もCDのプログラム再生、ランダム再生、シングル再生、リピート再生などの機能が使えますので、必要に応じて設定を行ってください。
- CDダビング時は、オートレディ機能、インクリメンタルプレイ機能を使うことができません。

以下の操作説明は、コピー元のCDおよび録音可能なカセットテープが本機にセットされていることを前提にしています。

基本ダビング（テープのA面の頭から録音）

1. 停止中に、本体またはリモコンの**CD DUB**キーを押します。





自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、テープカウンターが **"0000"** にリセットされます。CDは最初の曲の頭で一時停止して待機します。次にカセットは約8秒の無信号録音を行った後（リーダーテープ部分を避けるため）、CDが再生を始めると同時にカセットレコーダーが録音モードになり、ダビングを開始します（ディスプレー内の **"DUB"** が点灯）。

メ モ

- CD再生が終わるか、テープエンドに来てテープが停止（どちら面のエンドで停止するかはリバースモードによります）すると、ダビングが終了します。
- 両面録音モードでダビング中、録音開始時の面の最後に録音される曲が終わらないうちに走行方向が反転した場合、その曲は新たに冒頭から録音されます。
- 両面録音モードでダビング中、走行方向が反転後8秒間は録音を行いません（カセットレコーダーは録音モードですがCDが再生を一時停止します）。
- ダビングを途中でやめるには、TAPE用またはCD用**STOP**キーを押します。

録音レベルを調整してダビングする

初期設定では、CDをテープにダビングするときの録音レベルは自動的に設定されますが、**INPUT**つまみを使って録音レベルを調節してダビングすることもできます。

1. 録音ソースを **"CD"** に設定します（ → 37ページ「録音ソースを選ぶ」）。
2. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンの**MENU**キーを押してメニューモードに入ります。
3. 本体またはリモコンの **ー** / **＋**キーを使ってメイン表示部に **"DUB LEVEL?"** を表示し、本体またはリモコンの**ENTER**キーを押します。

```
DUB LEVEL?
```

4. 本体またはリモコンの **ー** / **＋**キーを使って **"VARI"** を選択します。

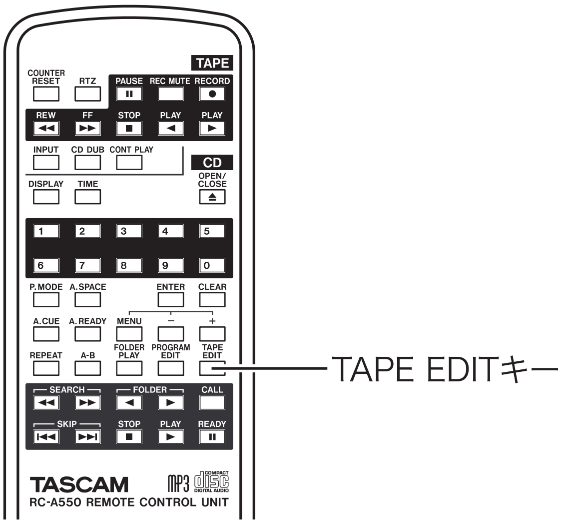
   選択値：**FIX**（初期値）、**VARI**
5. 本体またはリモコンの**ENTER**キーを押してディスプレーを通常表示に戻します。
6. 本体またはリモコンの**RECORD**キーを押して録音待機状態にします。
   録音ソースモニターになります。
7. CDを再生します。
   メーターに録音レベルが表示されます。
8. **INPUT**つまみを使って録音レベルを調節します。（ → 39ページ「録音する」）
9. CD用**STOP**キーを押してCDを停止し、TAPE用**STOP**キーを押して録音待機を解除します。
10. 本体またはリモコンの**CD DUB**キーを押します。

上記の「基本ダビング」のときと同じように本機が動作し、ダビングが行われます。

テープエディット機能を使う

テープエディット機能を使って、本機が自動的に組んだプログラムに従って、テープ長に合わせたダビングを行うことができます。
テープエディット機能では、テープのA面の時間内に収まる範囲でCDのトラック1から順にプログラムされ、その次のトラックから順にB面に収まるようにプログラムされます。

1. **CDの停止中に、**リモコンの**TAPE EDIT**キーを押します。
   テープエディットモードになり、ディスプレーのメイン表示部が以下のような表示になります。




```
TAPE>   C 30
```

メ モ

メニューのTAPE EDIT項目を選択してテープエディットモードにすることもできます。

2. 本体またはリモコンの －/＋キーを使って、セットされているテープの長さに合わせて値を選択します。
選択できるテープ長は、30、46、54、60、80、90、120です。（初期値：30）

注 意

テープエディット機能では“120”（120分テープ）を選択できますが、この製品では 90分を超えるテープのご使用はお勧めできません。（→ 9ページ「お勧めできないカセットテープ」）

3. 本体またはリモコンのENTERキーを押します。
プログラムが組まれていない場合、指定されたテープ長に合うように本機が自動的にプログラムを作成します。
すでにプログラムが組まれている場合、ディスプレーのメイン表示部に“OVERWRITE?”が表示されます。再度ENTERキーを押すと、現在のプログラムが廃棄され、指定されたテープ長に合うように本機が自動的にプログラムを作成します。

応用編

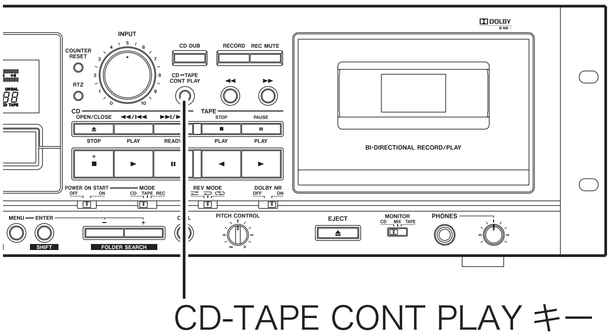
テープの途中から録音する

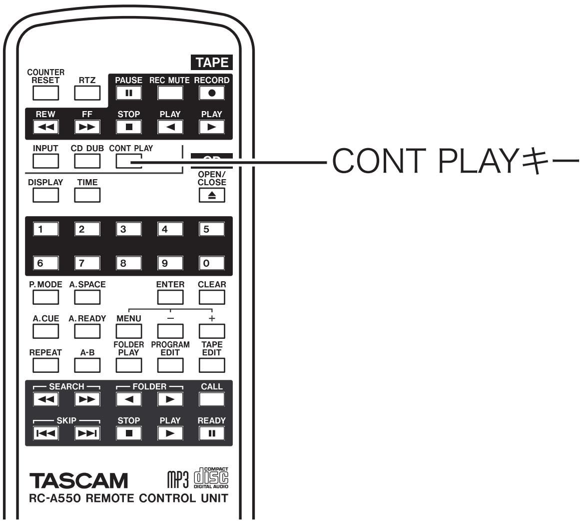
1. 録音したい位置までテープを送ります。
2. 本体またはリモコンのRECORDキーを押して録音待機状態にします。
ディスプレーに“REC”と“II”が点灯します。
3. 本体またはリモコンのCD DUBキーを押します。
録音方向設定に従って、その位置からダビングを開始します。

CDとテープの連続再生

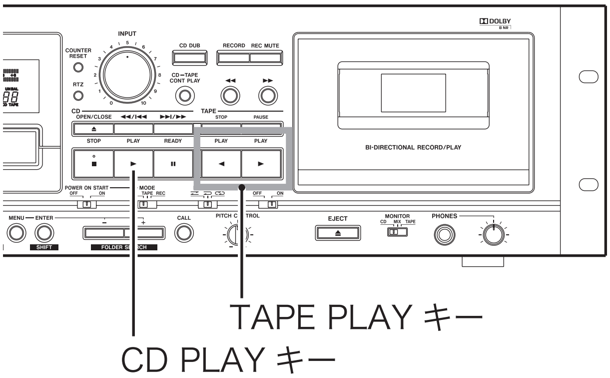
本機にセットしたCDとカセットテープを交互に再生すること ができます。すなわち、CDの再生を停止するとテープが再生 を開始し、テープの再生を停止するとCDが再生を開始します。
以下の手順では、録音されているカセットテープとCDがセットされていることを前提にしています。

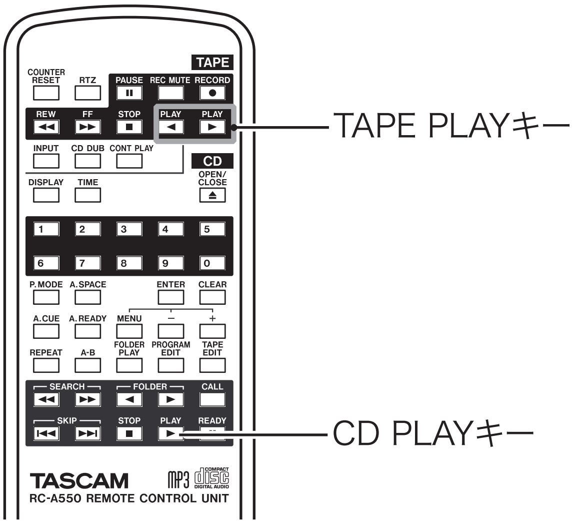
1. 本体の**CD-TAPE CONT PLAY**キーまたはリモコンの**CONT PLAY**キーを押します。



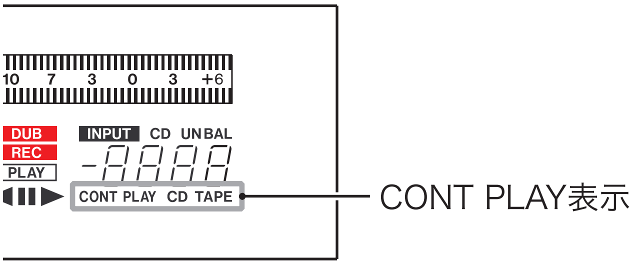


2. CD用またはTAPE用**PLAY**キーを押します。





押したキーに応じて、CDまたはカセットテープの再生が始まります。再生を終えると、もう一方の再生が自動的に始まります。連続再生モード中は、ディスプレー上に **"CONT PLAY"** が点灯し、再生中のメディア（**"TAPE"** または **"CD"**）が点滅します。



メモ

- TAPE用**STOP**キーを押して手動で再生を止めた場合も、もう一方の再生が自動的に始まります。
- CDがREPEATモードで再生している場合、手動でCDの再 生を停止するまでは、テープの再生を開始しません。
またテープのリバースモードが（⊂⊃）の場合、テープ が5往復して再生停止するか、あるいは手動で再生停止するま では、CDの再生を開始しません。

3. 連続再生モードを解除するには、もう一度、本体の**CD-TAPE CONT PLAY**キーまたはリモコンの**CONT PLAY**キーを押します。

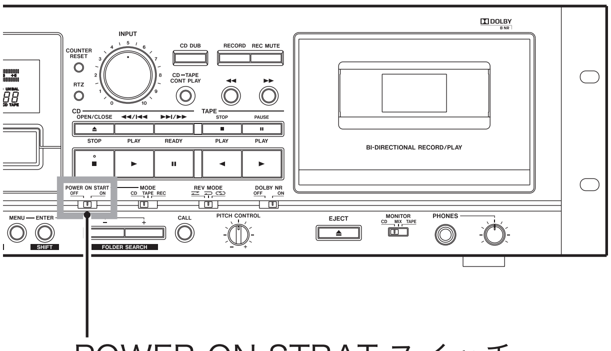
メモ

工場出荷時には、CDとテープの再生音がそれぞれ**CD OUTPUT**端子、**COMMON OUTPUT**端子から独立に出力されます。メニューのCOMMON OUT項目を**"MIX"**または**"AUTO"**に設定することにより、**COMMON OUTPUT**端子からテープとCD両方の音を出力することができます。（→ 19ページ「COMMON OUT項目の設定」）

パワーオンスタート

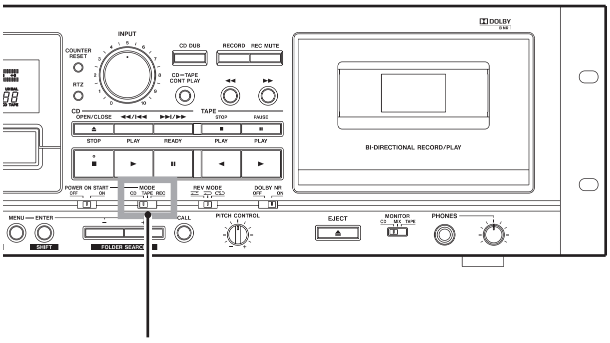
本機の電源を入れたときに、自動的にCDやカセットテープが再生を開始したり、自動的にカセットテープが録音を開始するように設定することができます。

1. 本機の電源がタイマーの電源出力から供給されるように、本機の電源コードをタイマーに接続します。
2. 再生するCDまたはカセット、または録音するカセットを、本機にセットします。
3. POWER ON STARTスイッチをONに設定します。



POWER ON STRAT スイッチ

4. MODEスイッチを希望のポジションに設定します。



MODE スイッチ

CD：電源が入るとCDの再生が始まります。
TAPE：電源が入るとカセットテープの再生が始まります。
REC：電源が入るとカセットテープの録音が始まります。

5. タイマーを「切」にします。
   本機の電源が切れます。

これで準備が整いました。
タイマーが「入」になると、本機の電源がオンになり、設定した動作が自動的に始まります。

出荷時の設定に戻す

以下の項目を工場出荷時の設定に戻すことができます。

- メニューの全項目（ → デフォルト）
- リピート再生機能（ → オフ）
- 再生時間表示（ → トラック経過時間表示）
- 文字情報表示（ → アルバム名表示）
- CDのピッチコントロール（ → オフ）
- プログラム設定（ →消去）

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの －/＋キーを使ってメイン表示部に“DEFAULT?” を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。
   確認表示（“SURE?”）になります。

DEFAULT?

[出荷時設定のメニュー表示]

SURE?

[出荷時設定の確認表示]

3. 本体またはリモコンのENTERキーを押します。

モノラル再生

CDおよびカセットテープの再生信号をモノラルで出力することができます。
設定はメニューを使って行います。
モノラル再生機能がオンのとき、ディスプレーに“MONO”が点灯します。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使ってメイン表示部に“MONO OUT?”を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。

MONO OUT?

3. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使って“ON”または“OFF”を選択します。
   “ON”を選択すると、CD OUTPUT、TAPE COMMON OUTPUTおよびPHONES端子からモノラル信号が出力されます。
   選択値：OFF（初期値）、ON
4. ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

メモ

- この設定は、電源を切っても保持されます。
- CDデジタル出力はモノラルにはなりません。

本機の情報を見る

バージョンをチェックする

本機のファームウェアのバージョンおよびビルド番号をチェックすることができます。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使ってメイン表示部に“VERSION?”を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。

VERSION?

3. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使ってメインバージョン表示（“VER>”）、ビルド番号表示（“BUILD>”）、CDドライブバージョン表示（“CDD>”）を切り換えます。
4. チェックを終えたら、ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

モーターの稼働時間をチェックする

本機のCDプレーヤーおよびカセットレコーダーの稼働時間をチェックすることができます。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使ってメイン表示部に“MOTOR TIME?”を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。

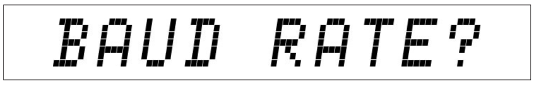
MOTOR TIME?

3. 本体またはリモコンの ー /＋キーを使ってCDプレーヤーのモーター稼働時間表示（“CD>”）とカセットレコーダーのモーター稼働時間表示（“TAPE>”）を切り換えます。
4. チェックを終えたら、ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

RS-232C端子を使う

本機のRS- 232C端子をパソコンのRS-232C端子と接続することにより、パソコンから本機の制御を行うことができます。
通信に関する設定はメニューから行います。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体またはリモコンのMENUキーを押してメニューモードに入ります。
2. 本体またはリモコンの ー /+キーを使って以下の項目（RS-232Cに関するメニュー項目）を表示し、本体またはリモコンのENTERキーを押します。



3. 本体またはリモコンの ー /+キーを使って設定を行います。
4. 設定を終えたら、ENTERキーを押してディスプレーを通常表示に戻します。

RS-232Cに関するメニュー項目

“BAUD RATE”

ボーレート（通信速度）の設定を行います。
4800 、9600 、19200 、38400（bps）の中から選択します。
（初期値；19200 ）

“LENGTH”

通信データ長の設定を行います。
7または8（bit）に設定します（初期値：8)。

“PARITY BIT”

通信パリティビットの設定を行います。
NON（パリティなし）、EVEN 、ODD の中からします。
（初期値；NON ）

“STOP BIT”

通信ストップビットの設定を行います。
1または2（bit）に設定します。（初期値；1）

メ モ

- RS- 232C設定は、電源を切っても保持されます。
- 本機のRS- 232Cコマンドプロトコルについては、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

パラレル端子を使う

PARALLEL端子を使って、外部のコントローラーから本機をパラレル制御することができます。またPARALLEL端子からはタリー信号が出力されますので、外部機器の動作や表示用のトリガーなどに利用することができます。
ピン配列は以下のとおりです。

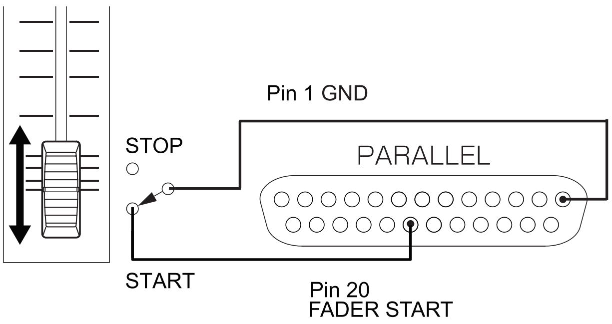
ピン番号	機能	IN/OUT
1	GND	–
2	TAPE PLAY REV	In
3	TAPE PLAY FWD	In
4	TAPE STOP	In
5	TAPE RECORD	In
6	TAPE REW	In
7	TAPE FF	In
8	TAPE PAUSE	In
9	TAPE RECORD TALLY	Out
10	TAPE STOP TALLY	Out
11	TAPE PAUSE TALLY	Out
12	TAPE PLAY TALLY	Out
13	TAPE DIRECTION TALLY	Out
14	CD PLAY	In
15	CD STOP	In
16	CD CALL	In
17	CD PREVIOUS	In
18	CD NEXT	In
19	CD READY	In
20	CD FADER START	In
21	CD STOP TALLY	Out
22	CD READY TALLY	Out
23	CD PLAY TALLY	Out
24	CD EOM TALLY	Out
25	+5V*	–

In：+5Vプルアップ、外部コマンド受信アクティブロー
（グランド30ms 以上で動作）

Out：オープンコレクターによるトランスポートステータス
表示用信号（耐圧15V 、最大電流35mA ）

＊ 最大供給電流50mA

以下は、フェーダースタート/ストップによって本機の再生をコントロールする場合の接続例です。



動作メッセージ

本機の動作に応じて、ディスプレーのメイン表示部に以下のメッセージが表示されます。

メッセージ	メッセージ 点灯/点滅	内容	対応方法
Close	点灯	ディスクトレーを閉じています。	
No Disc	点灯	ディスクがありません/ディスクを検出できませんでした。	
No Files	点灯	ディスクに再生可能なファイルが1つもありません。	MP3, WAVファイルの記録されたディスクをセットしてください。
No Filename	点灯	ファイル名を表示できません。	表示できる文字情報は 7bit ASCii相当の文字のみです。
No Name	点灯	表示できるアーティストデータがないか、データを表示できません。	表示できる文字情報は 7bit ASCII相当の文字のみです。
No Title	点灯	表示できるタイトルデータがないか、データを表示できません。	表示できる文字情報は7bit ASCII相当の文字のみです。
Open	点灯	ディスクトレーが開いています。	
OVERWRITE ?	点灯	プログラムを上書きする操作に対する確認。	
PGM CLEAR !	点灯	プログラムをすべて消去しました。	
TOC Reading	点灯	TOC情報を読み込んでいます。	

警告メッセージ

操作を受け付けない場合、以下のような警告メッセージを表示します。警告メッセージは約2秒間表示された後、自動的に消えます。

メッセージ	メッセージ 点灯/点滅	内容	対応方法
No Call Pt !	点灯	コールポイントが設定されていません。	CALLポイントを登録してください。(READY→PLAY)
No Program !	点灯	プログラムが設定されていません。	プログラムを設定してください。
PGM Full !	点灯	プログラムには100曲以上登録できません。	プログラムステップの追加登録をあきらめるか、またはプログラムを消去してから登録し直してください。

エラーメッセージ

以下のエラーメッセージが表示されたときは、対応方法を参考に原因を解消してください。それでも改善しない場合は、ティアック修理センターにご相談ください。

＊CDドライブ

メッセージ	メッセージ 点灯/点滅	内容	対応方法
Comm Error	点滅	CDドライブとの通信ができません。	ティアック修理センターにご相談ください。
Comm Error	点灯	CDドライブとの通信でエラーが発生しています。	ティアック修理センターにご相談ください。
Decod Error	点灯	サポート外のファイルであるか、ファイルを再生できません。	ディスクを交換してください。
Disc Error	点灯	TOCやファイルシステムが読み出せないか、フォーカス調整ができません。	ディスククリーニングするか、交換してください。
Drive Error	点灯	CDドライブのハードウェアが故障しています	ティアック修理センターにご相談ください。
Read error	点灯	曲にアクセスできません。	ディスククリーニングするか、交換してください。

＊カセットデッキ

メッセージ	メッセージ 点灯/点滅	内容	対応方法
Err	点灯	カセットメカが故障しています。	ティアック修理センターにご相談ください。

第 11 章　トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

●電源が入らない

↓

- 電源プラグがしっかりと差し込まれていますか?

●リモコンから操作できない。

↓

- リモコンの電池が入っていないか、消耗していませんか?

●音が出ない。

↓

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。
- アンプの音量や設定を確認してください。
- **CD OUTPUT**端子からはテープ再生音は出力されません。また**COMMON OUTPUT**端子からはメニューのCOMMON OUT項目の設定に基づいて信号が出力されます。

●雑音がする。

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていませんか?

●モノラルで再生される。

↓

- メニューのMONO OUT項目が **“ON”** になっていませんか?

●カセットテープに録音できない。

↓

- カセットテープの誤消去防止用のツメが折れていませんか?
- カセットレコーダーが停止または録音待機状態になっていませんか?
- 接続をもう一度確認してください。
- **INPUT**つまみは上がっていますか?
- メニューのTAPE INPUT SOURCE項目で入力ソースが正しく選択されていますか?

●カセットテープの再生音がおかしい。

↓

- ヘッドやピンチローラーが汚れていませんか?
  汚れている場合はクリーニング液で清掃してください。
- ヘッドが帯磁している場合、消磁してください。
- ドルビー Bノイズリダクションの設定が適切になっていますか?
- ピッチコントロールが働いていませんか?

●CDからカセットにダビングできない。

↓

- CDが再生または一時停止になっていませんか?
- カセットテープの誤消去防止用のツメが折れていませんか?

●CDを再生できない。

↓

- MP3ファイルの場合、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。
- ディスクに傷やよごれが付いていませんか?

●データCDを全部再生できない。

↓

- メニューのFOLDER PLAY項目が **“ON”** になっていませんか?

定格

CDプレーヤー部

● 再生ディスク

CD-DA（12cm/8cm）、CD-ROM（12cm/8cm）ISO9660 LEVEL 1/2/ROMEO/JOLIET format（CD-R/CD-RW DISC 対応）

● MP3再生仕様

共通

音声モード：STEREO/JOINT STEREO/DUAL CHANNEL/MONO/VBR

・MPEG1 Audio Layer III（MP3）
・サンプリング周波数：32kHz/44.1kHz/48kHz
・ビットレート：32kbps～320kbps

● WAV再生仕様

サンプリング周波数：8kHz/11.025kHz/12kHz/16kHz/22.05kHz/24kHz/32kHz/44.1kHz/48kHz
量子化ビット数：8bit/16bit

● CD再生仕様

サンプリング周波数：44.1kHz
量子化ビット数：16bit
チャンネル数：2チャンネル

● オーディオ特性

周波数特性：20Hz～20kHz ±0.8dB
S/N比：98dB（20kHz LPF + A-weighted）
歪率（THD+N）：0.006%（1kHz：20kHz LPF）
ダイナミックレンジ：96dB（20kHz LPF + A-weighted）
チャンネルセパレーション：90dB（1kHz：1kHz BPF）

カセットテープ部

● トラック方式

4トラック2チャンネルステレオ

● ヘッド構成

録音/再生ヘッド　x 1（回転リバース式）
消去ヘッド　x 1

● 使用テープ

C46～C90タイプカセットテープ（メタルは再生のみ）

● テープ速度

4.76cm/sec

● ピッチコントロール幅

±10%以上

● ワウフラッター

0.25%（JIS WRMS）以下

● 早巻時間

160秒以内（C-60テープ）

● 録再周波数特性

ノーマル（タイプ）：50～10kHz ±3dB
クローム（タイプ）：50～12.5kHz ±3dB

● 録再チャンネルセパレーション

1kHz：35dB以上（1kHz、BPF使用）

● 録再S/N比

58dB（NRオフ、規定録音レベル）
69dB（ドルビー NRオンCCIR-ARM）

● 録再歪率

2.5%以下（400Hz / ドルビーレベル）

アナログオーディオ

CDプレーヤー部

● CD LINE OUTPUT [BALANCED]端子（CD-A750のみ）

アナログ・バランス出力
コネクター：XLR-3-32相当
基準出力レベル：+4dBu
最大出力レベル：+20dBu
出力インピーダンス：100Ω

● CD LINE OUTPUT [UNBALANCED]端子

アナログ・アンバランス出力
コネクター：RCAピンジャック
基準出力レベル：－10dBV
最大出力レベル：+6dBV
出力インピーダンス：200Ω

カセットテープ部

● TAPE LINE OUTPUT [BALANCED]端子（CD-A750のみ）

アナログ・バランス出力
コネクター：XLR-3-32相当
基準出力レベル：+4dBu
出力インピーダンス：100Ω

● TAPE LINE OUTPUT [UNBALANCED]端子

アナログ・アンバランス出力
コネクター：RCAピンジャック
基準出力レベル：－4.5dBu
出力インピーダンス：200Ω

● TAPE LINE INPUT [BALANCED]端子（CD-A750のみ）

アナログ・バランス入力
コネクター：XLR-3-31相当
基準入力レベル：+4dBu
最小入力レベル：－6dBu
入力インピーダンス：14.4kΩ

- **TAPE LINE INPUT [UNBALANCED]端子**

アナログ・アンバランス入力
コネクター：RCAピンジャック
基準入力レベル：－9dBu
最小入力レベル：－19dBu
入力インピーダンス：22kΩ

ヘッドホン部

- **PHONES端子**

ヘッドホン出力
コネクター：ステレオ標準ジャック
定格出力：20mW+20mW以上
（CD MONITOR時、THD+N 0.1%以下、32Ω負荷）

デジタルオーディオ

CDプレーヤー部

- **CD DIGITAL OUTPUT [COAXIAL]端子**

コネクター：RCAピンジャック
対応信号フォーマット：IEC-60958-3民生用規格準拠（S/PDIF）
出力インピーダンス：75Ω

コントロールI/O（CD-A750のみ）

- **CONTROL I/O [PARALLEL]端子（CD-750のみ）**

パラレルコントロール入出力
コネクター：D-Sub 25ピンコネクター
最大入力電圧：+5.5V
ハイレベル最小入力電圧：+3.75V以上
ローレベル最大入力電圧：+1.25V以下
出力形式：オープンコレクター（耐圧15V、最大35mA）
ローレベル最大出力電圧：+0.5V以下
+5V電源 最大供給電流：50mA以上

- **CONTROL I/O [RS-232C]端子（CD-A750のみ）**

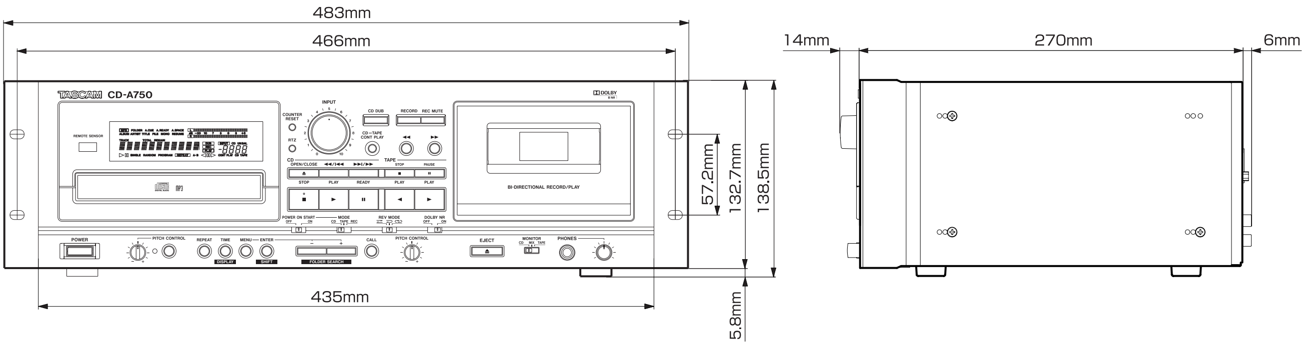
通信仕様：RS-232Cプロトコル仕様書1.00準拠
コネクター：D-Sub 9ピンコネクター

一般

- **電源：**100 VAC, 50～60Hz
- **消費電力：**13W（CD-A550)、14W（CD-A750）
- **外形寸法：**483 x 138 x 275mm（幅x高さx奥行き）
- **質量：**6.3kg（CD-A550)、6.5kg（CD-A750）

＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
仕様および外観は改善のため予告なく変更することが有ります。

寸法図


483mm
466mm
14mm
270mm
6mm
TASCAM
CD-A750
57.2mm
132.7mm
138.5mm
435mm
5.8mm

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00〜12:00/13:00〜17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530　東京都多摩市落合1-47

0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30〜17:00です。

ティアック修理センター 〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-8

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

市内通話料でOK ナビダイヤル **0570-000-501**

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS･IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので､通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は､ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか､通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒 206-8530　東京都多摩市落合 1-47
http://www.tascam.jp/

Printed in China